

— 吉 田 家
古文書資料集 —

函 南 町 教 育 委 員 会

消

印

西

書

西南町中央公民館

元年 1 月

210

423

第 2462 号

序

私たちの郷土函南町は、有数の観光地―伊豆半島―への玄関口に位置し、北には富士を仰ぐ風光明媚な土地であります。温暖な気候風土に恵まれた自然環境とも相まって、近年の人口増加は著しくここ十年間で倍増しております。こうした状況のなか、社会生活の變化やそれを取りまく環境の變化も急激であり、家屋も新しく建て直されるなど民家や倉など古い建物がつぎつぎと取り壊されています。そして、そこにあった資料も同時に消失していきます。

こうした現状に対し、資料の消滅や散逸を防ぎ当町の近世の正しい歴史を復元するため、当町教育委員会では昭和60年度より町内古文書収集調査事業を計画・実施することとしました。

第一次調査事業として、江戸時代に間宮村の名主をつとめた吉田家に代々伝えられてきた古文書の調査を行うことになりました。同文書の中には、当時の行政に関する資料、あるいは庶民の生活を彷彿させる古文書と幅広いジャンルのものが認められました。

ここにその第一次調査事業である間宮・吉田家古文書が三ヶ年の調査期間を経て、その成果を資料集として発刊できることは誠に喜ばしいことであります。本書を当函南町及び周辺地域における近世史を研究する上での好資料として広く活用され、さらには郷土を育む一つの糧として活用されることを切望して発刊の序といたします。なお、最後ではありますが、本書を刊行するにあたり古文書の解

読・原稿執筆・分類等、本事業の実質的作業を行っていただいた調査委員・調査員の方々、ご協力をいただいた多くのの方々、そして本事業に対しまして暖いご理解とご協力を賜りました吉田二郎先生に対しまして、深甚なる謝意を表する次第であります。

昭和六十三年三月

函南町教育委員会教育長

塩 谷 光 夫

例 言

一、本書は静岡県田方郡函南町間宮に所在する吉田家古文書資料集である。

二、本書に掲載した資料は吉田家古文書総数一二一七点（昭和六十年三月一日末調査現在）のうち、近代以降を除いた主要資料一七六点である。

三、本書に係る資料は、昭和五十五年度に函南町教育委員会が吉田家宅において原本をコピー収集したものである。

四、本書に係る事業は、函南町教育委員会が計画した町内古文書収集調査事業の第一次事業として、昭和六十年六月より昭和六十三年二月にかけて行ったものであり、資料の解説・原稿執筆・分類は次の調査委員・調査員に依頼し実施した。

調査委員 鈴木勝彦（前函南町文化財保護審議会委員）

昭和六十二年三月審議会委員辞職）

調査員 笠松幸一（函南町歴史研究会々員）

香川幸夫（函南町歴史研究会々員）

田中 悟（函南町歴史研究会々員）

水上和子（函南町歴史研究会々員）

梶尾是彦（函南町歴史研究会会長）

土屋弘光（函南町文化財保護審議会委員）

なお、本調査の実施にあたっては杉崎行夫（函南町歴史研究会

前会長）・渡辺忠良（函南町歴史研究会々員）両氏のご協力を頂いた。厚く御礼申しあげる次第である。

五、本書の編集は、調査委員・調査員の了解のもとに事務局で行った。なお、当初計画では写真等も掲載する予定であったが、諸般の事情により割愛した。次の機会に譲ることとする。

六、本事業に係る事務局は、函南町教育委員会社会教育課が担当した。

七、本書に係る資料は、事務局で保管している。

八、本書を作成するにあたり、こころよく資料をご提供くださるとともに、数次にわたる原本調査にも暖く応対していただいた吉田二郎氏並びにそのご家族の皆様には、心より厚く御礼を申しあげます。本書の刊行をもって、僅かではありますがそのご好意に対する責務の一端を果たしたものと存じます。

目次

吉田家古文書の概要	1
私事訴訟	2
八ヶ橋普請	12
用水	24
年貢	27
箱根山林場	31
人別送り	36
手踊・角力	38
身元引請	40
助郷	44

酒造	48
公事	51
借入れ・預り証文	60
扶持	63
差出金下ヶ方	64
領収	67
金銭等の貸借	70
雑の部	77
無尽	96
年貢割付状	97
年貢皆済目録	103

吉田家古文書の概要

吉田家の古文書の中で一番古いと考えられるものが、幕府と井出氏の相給であった頃（元禄元年より同十年迄）の御成箇割付状である。これに類する年貢割付状第一号は、元禄十一年能勢氏が出したものである。年貢割付状の数は少く約十通余り、もっとも定免制になったせいもある。

年貢皆済目録は半紙一枚の簡単なもので、武士の生活が苦しくなり貸借関係が生じると皆済目録も複雑になり、半紙五枚にも七枚にも及ぶ様になる。

訴状・歎願状の類が約五十通、中には百姓がストを起し村役人では始末できないので出役して呉れというものもある。地頭所よりの下知状・申渡状が約三十通余り、これも文化文政以後のものが多く、

書翰類は、公の文書として地頭所・韭山代官所よりのもの等約十五通、名主仲間の肥田村庄右衛門よりの八ヶ橋落成についての連絡などがある。

宗門人別改帳五冊があり、宗門関係文書として瀧源寺又その本山の牛込鈴法寺等の文書があり、虚無僧に手を焼いた地方の村々が、本山に取締りを依頼した事がよくわかる。

村送り約二十通、なぜか明治二年のものが格別に多い。高反別名寄帳・高反別日記・小日記等多数あり、知行所別になっているものもある。

覚という字は都合のよい字で、地頭所の指示でも覚、領収書でも

覚、これらが約百通余り、

差入申一札之事など「一札の事」と書いた文書も内容は多様で、約四十通もあり、別に請書・詫状・事件に係属した済口證文など多数ある。證文といえは、借用證文・質地證文等は膨大な量で、少しコピーしたが、余りにも多いので中止した。

村借用というのがあり、何の目的で幕府（駿府）の金を借りたのか不明だが、借用した当人は欠落して残金を返済するのに五十四年年賦という書類もある。

事件書類として、船山山論・箱根秣場一件・手踊り角力一件・塚本村論地一件・清水寺・理不尽出入・喜七欠落一件・平九郎一件・田地押取村八分一件など。また平井村留兵衛殿口掛り一件というのがあり、間宮村百姓四十五人が扶養差支（生活が苦しく家族の扶養ができない）という理由で、集団で江戸の地頭所へ直訴しようとして平井村の名主留兵衛に止められたというものもある。

村政に関する村掟・差出帳・村入用帳（会計簿）などもあるが量は少い。

古地図は用水のもの、理不尽出入に使用されたのではないかとと思われる絵図など二・三

他に箱根関所通行のため地頭所発行の手形・諸国巡見使に関する書類など、間宮のような水浸場で、よくこれだけの古文書が保存されていたものだと感じた。

香川幸夫

(私事訴訟)

217 乍恐以書付御訴訟申上候

一豆洲田方郡間宮村能勢重治郎様御知行所名主伊右衛門申上候
私義三十年以前治郎右衛門名跡相續仕猶又十三年以前私妻ニ
治郎右衛門娘相嫁申候而高五捨三石余請取仕申候且又父治郎右
衛門弟ニ幸助と申者老入御座候此者義別宅ニ商賣仕罷有候
此者方高五石目余治良右衛門致分地田別帳ニ印被置申候
然ル所ニ父治郎右衛門義病身ニ付別宅仕申候且又名主役㊤㊦
相勤申候然ル處右幸助方江私親治郎右衛門江申談シ又候高
拾老石目余去々戌之春分地仕都合拾七石目余分呉レ
申相殘リ高三拾六石目余私講請申候且又父治郎右衛門義去々
戌之七月病死仕候依之能勢重治郎様名主高田忠治郎様御領分
名主相勤申候然所ニ去ル亥ノ五月伯ヲ幸助巧ヲ以私三拾六石余
拾老石目余去々戌之春分地仕都合拾七石余分呉レ
申相殘リ高三拾六石目余私講請申候且又父治郎右衛門義去々
戌之七月病死仕候依之能勢重治郎様名主高田忠治郎様御領分
名主相勤申候然所ニ去ル亥ノ五月伯幸助巧ヲ以私三拾六石余
并諸道具等迄三分一分ヲ取可申旨申掛候處右分地致シ
呉レ候上ハ一分ニ而も相分候筋毛頭無御座間一向取合不申候

得者右幸助去々亥五月私御地頭様江出訴仕候依之私
被召出双方御吟味被爲遣候得共何之證據も無御座候へば
御取上も無御座候而歸國仕候様依之私宿文六新 町文蔵
両人之者立合右出入伯甥之義ニ而氣毒存シ私取扱可申由ニ而
幸助方江私おくり候間以取扱申候處一向得心不仕寅歸國
仕候得共即十月私方江幸助親子者共踏込甚惡口申候
得共是又一向取合不申候依之村五拾之名主方取扱可申旨
申ニ付無是非高三石目程も遺㊤㊦申候得共彼是六ヶ敷
申掛リ候依之親類共立会申此上及出入候而ハ双方物入有之候
間致不祥今貳石目増都合五石目致合力候様ニと申相談仕爲
惣代原木村新兵衛と申者村五給名主方江右五石目ヲ以取扱呉レ
候様相頼候所幸助義ハ得心仕候得共右五給之名主共高拾石
差出シ相不申ハ何分取扱罷不成候段申候而廣渡寺と申旦那寺江
寄合仕名主中面々支配下百姓方江嚴敷申付私方江出入
不仕候不存寄義申掛リ難義至極仕候猶又高拾石目不差出候と
申徒党仕候義ハ有之間敷義と乍恐奉存候其上村役人等
義も我侶ニ取上往還御傳馬役御用向㊤㊦御指支
出来可申乍恐奉是又村中徒党仕私方江出入無之相巧候
義ハ私所持田畑入作小作等無御座得ハ私身所相潰候巧と
乍恐奉存候此上内分ニ而取扱御座候而も難相濟奉存候若
後日何程之巧申掛ケ候哉と乍恐甚無心㊤㊦候依之
此度無是悲御訴訟申上候乍恐左之者爲被 召出
御吟味上右治郎右衛門名跡相續仕候様ニ偏御慈悲奉願上候以上

明和五年子二月

能勢重治郎 兩御知行所
高田忠治郎

豆洲田方郡間宮村

訴訟人 名主 伊右衛門

豆洲同郡

久野伊兵衛御知行所

同村 名主

久野伊兵衛御知行所

同村 名主 與右衛門

組頭 喜左衛門

百姓代 甚 八

能勢友之丞様御知行所

名主 伴右衛門

組頭 平右衛門

三宅源左衛門様御知行所

名主 甚兵衛

百姓代 吉右衛門

能勢忠左衛門様御知行所

名主 左衛門

組頭 弥兵衛

能勢忠左衛門様御知行所

名主 清左衛門

組頭 弥兵衛

百姓代 理右衛門

武嶋 三郎様御知行所

名主 七郎左衛門

組頭 又兵衛

百姓代 半左衛門

井出織部様御知行所

名主 六兵衛

組頭 元右衛門

百姓代 長藏

御奉行様

211 乍恐以書付御訴訟奉申上候

能勢重治郎

高田忠治郎 御知行所

豆洲田方郡間宮村

名主

訴訟人伊右衛門

一、田地押収出入
一、扱を聞入不申逆

はちぶ仕候事

同州同郡同村

相手幸助

一、豆州田方郡間宮村能勢重治郎高田忠治郎

両御知行所名主伊右衛門申上候私持高五拾三石余

有之候所父治郎右衛門存生之内去^ル戌春弟幸助^江高

拾七石余分ケ呉殘三拾六石余私分ニ御座候同戌七月

治郎右^エ門病死仕候去亥五月幸助巧を以本家之私高

三拾六石余之内三步一分ケ収可申旨申立候得共無筋ニ付

私取合不申候御地頭様^江幸助出訴仕候依之双方

被召出御吟味之上御取上無御座候ニ付双方帰村仕候處ニ

五給名主中扱可申候間高拾石出^シ候様申立候御地頭様ニ而

御収上ケ無御座候故出入者相止申候所ニ扱可申旨達而申候ニ付

無是非高三石目遣可申と申候所 彼是六ツケ敷相成候故

親類共申候者此上及出入候而者双方物入有之候間致不

様式石目相増都合五石合力仕候様親類相談之上惣代

原木村新兵衛ニ為申候ニ付伊右^エ門^江幸助も得心仕候得共

五給之名主中者何分先達而申候通拾石出候様申立候

御地頭様ニ而者一向指出候筋ニ者無御座候所ニ五給之名主中

何分拾石出^シ不申ニおいてハ村中はちぶ仕候由ニ而村中之

者老人も伊右^エ門方^江出入不仕候様ニ嚴敷五給名主中申

付候由ニ御座候不存寄徒申掛ケ難仕候扱を聞不申

迎村中徒費仕候儀者有之間敷儀奉存候其上私

⑤⑥⑦相對罷有候所我俣取上申候往還御用向者⑧

自今御指支出来可申と奉存候

一、父治郎右^エ門存生之内弟幸助^江高拾七石余分ケ呉候所ニ

治郎右衛門死後ニ至本家之私高三拾六石余之内三步一⑨⑩

取候巧ニ而幸助親子之者共私宅^江踏込種々惡口申

騒動仕候全躰五給之名主中腰押ニ而本家之私を

押潰候惡巧と奉存候

右五給徒党之名主組頭^江名前銘々不殘被召出

御吟味奉願上候村中之者共老人も私方^江出入不仕候様

嚴敷申付候上者如何様之所存ニ有之候哉身分之程甚

無心元奉存候依之乍恐差急^キ

御訴訟奉申上候御慈悲を御介被下置候様幾重ニも

御憐愍奉仰候以上

能勢十治郎

高田忠治郎両御知行所

明和五年正月

豆州田方郡間宮村

名主伊右^エ門

御奉行所様

右之通 御奉行所様^江御訴訟奉申上度奉存候間

御指出被下置候様偏奉願上候以上

豆州田方郡間宮村

子正月

名主 伊右エ門^印

江川太郎左衛門御代官所

同州君沢郡御園村

親類惣代七郎右衛門^印

能勢十治郎様

小笠原能登守領地

御役人衆中

同州同郡北江間村

親類惣代庄左エ門

230 乍恐以書付御訴訟奉申上候

能勢重治郎 御知行所

高田忠治郎

豆州田方郡間宮村

訴訟人名主 伊右衛門

一、田地押収取出人
一、扱を聞濟不申逆
はちぶ仕候事

豆州同郡同村

相手 幸助

久野伊兵衛様御知行所

同州同郡同村

扱相手名主 与右衛門

組頭 惣左衛門

七右衛門

伊右衛門

五左衛門

善兵衛

市郎左衛門

定七

三左衛門

半右衛門

半兵衛

只八

由兵衛

五右衛門

惣右衛門

三右衛門

武右衛門

源兵衛

治郎兵衛

仁兵衛

三宅源九左衛門様御知行所
同州同郡同村

扱相手名主

甚兵衛

源兵衛

忠八

太右衛門

四郎兵衛

市左衛門

仁右衛門

佐五右衛門

傳右衛門

左京

七兵衛

惣七

喜右衛門

三右衛門

覚右衛門

武嶋乙三郎様御知行所

同州同郡同村

扱相手名主 七郎左衛門

組頭 又兵衛

文左衛門

⊗右衛門

能勢五郎左衛門様御知行所

同州同郡同村

扱相手名主

組頭

清左衛門

弥五兵衛

惣右衛門

半右衛門

⊗兵衛

長兵衛

七郎兵衛

利右衛門

惣八

彦兵衛

井出織部様御知行所

同州同郡同村

扱相手名主 六兵衛

組頭 元右衛門

長 蔵

權左衛門

善 蔵

加左衛門

与兵衛

能勢友之丞様御知行所

同州同郡同村

相手名主

伴右衛門

平右衛門

一豆州田方郡間宮村能勢重治郎高田忠治郎

而御知行所名主伊右衛門申上候私持高五拾三石余

有之候所ニ父治郎右衛門存生之内去ル戌春弟幸助江

高拾七石余分ケ呉残三拾六石余私分ニ御座候同戌之

七月治郎右衛門病死仕候去亥五月幸助巧を以本家

之私高三拾六石余之内三分一分ケ取可申旨申

幸助出訴仕候依之双方被召出御吟味之上

御取上ケ無御座候ニ付双方帰村仕候処ニ五給名主中

扱可申候間高拾石出候様申之候御地頭様ニ而

御取上ケ無御座候故出入者相止申候所ニ扱可申旨

達而申候ニ付無是非高三石目遣可申と申候所ニ

彼は六ツケ敷相成候故親類共申候は以上及出入候

而は双方物入有之候間致不祥式石目相増

都合五石合力仕候様親類相談之上惣代原木村

新兵衛ニ為申候ニ付伊右衛門弟幸助も得心仕候得共

五給之名主中は何分先達而申候通拾石出候様

申之御地頭様ニ而は一向指出候筋ニは無御座候所ニ

はちぶ仕候由ニ而村中之者耆人も伊右衛門方江

出入不仕候様敷敷五給名主中申付候由ニ御座候

不存寄徒申掛ケ難儀仕候扱を聞濟不申候ハ、

村中徒党仕候は有之間敷儀ニ奉存候

其上私村役も相勤罷有候所ニ我低ニ取上申候

往還御用向は自分御指支出来可申と奉存候

一父治郎右衛門存生之内弟幸助江高拾七石余

分ケ呉候所ニ治郎右衛門死後ニ至本家之私高三拾六石

余之内三分一奪取巧ニ而幸助親子之者共

私宅江踏込種々惡口申騒動仕候全躰

五給之名主中腰押ニ而本家之私を押潰候

悪巧ニ奉存候

右五給徒党之名主組頭江名前銘々不残被

召出御吟味奉願上候村中之者共耆人も私方江

出入不仕候様敷敷申付候上は如何様之所存ニ

有之候哉身分之程甚無心元奉存候依之

乍恐差急キ 御訴訟奉申上候御慈悲
を以御介ヶ被下置候様幾重ニ茂御憐愍奉仰候以上

能勢重治郎 両御知行所

高田忠治郎

豆州田方郡間宮村

名主 伊右衛門

明和五子年正月

御奉行所様

右之通御 奉行所様江御訴訟奉申上候
依而写差上申候 以上

子

豆州田方郡間宮村

正月

名主 伊右衛門

能勢友之丞様

御役人衆中

249 乍恐以書付御訴訟奉申上候

能勢重治郎

高田忠治郎御知行所

豆州田方郡間宮村

名主

訴訟人伊右衛門

一田地押取出人

一扱聞済(久)(久)(久)

はち婦仕候事

豆州同郡同村

相手

幸助

久野伊兵衛様御知行所

同州同郡同村

扱相手名主

与右衛門

組頭

惣左衛門

七右衛門

伊右衛門

五左衛門

善兵衛

市郎左衛門

定七

三左衛門

半右衛門

半兵衛

只八

由兵衛

五右衛門

惣右衛門

三右衛門

武右衛門

由兵衛

喜右衛門

三左衛門

覺右衛門

武嶋乙三郎様御知行所

同国同郡同村

扱相手名主

㊦㊦㊦

組頭

又兵衛

文左衛門

清右衛門

八左衛門

平四郎

左兵衛

弥右衛門

権右衛門

半左衛門

万右衛門

徳左衛門

文右衛門

喜之兵衛

源兵衛

治郎兵衛

仁兵衛

三宅源左衛門様御知行所

同州同郡同村

扱相手名主

甚兵衛

源兵衛

忠八

太右衛門

除庄左衛門

四郎兵衛

六郎左衛門

仁右衛門

左五右衛門

伝右衛門

左京

七兵衛

勝右衛門

能勢五郎左衛門様御知行所

同国同郡同村

扱相手名主 清左衛門

組頭 弥五兵衛

惣右衛門

半右衛門

小兵衛

太兵衛

長兵衛

七郎兵衛

利左衛門

惣八

彦兵衛

井出織部様御知行所

同国同郡同村

扱相手名主 六兵衛

組頭 元右衛門

長藏

平治郎

權左衛門

善藏

加左衛門

与兵衛

能勢友之丞様御知行所

同国同郡同村

相手名主 伴右衛門

平右衛門

一豆州田方郡間宮村能勢重治郎高田忠治郎

両御知行所名主伊右衛門申上候私持高五拾三石余

有之候処父治郎右衛門存生之内去ル戌春弟幸助江高

拾七石余分々呉殘三拾六石余私分ニ御座候同戌七月

治郎右衛門病死仕候去亥五月幸助巧を以本家之私

高三拾六石余之内三分一分々取可申旨申之候得共無筋

ニ付私取合不申候御地頭様ニ幸助出訴仕候依之

双方被召出御吟味之上御取上ケ無御座候ニ付双方

婦村仕候処ニ五給名主中扱可申候間高拾石出候様

申之候御地頭様ニ御取上ケ無御座候故出入者相止

申候処ニ扱可申旨達而申候ニ付無是非高三石目

遣可申と申候処ニ彼是六ツ々敷相成候故親類共申候者

此上及出入候而者双方物入有之候間致不祥式石目

相増都合五石合力仕候様親類相談之上惣代原木村

新兵衛ニ為申候ニ付伊右衛門並ニ幸助も得心仕候得共五給之

名主中者何分先達而申候通拾石出候様申之候

御地頭様ニ而者一向指出候筋ニ者無御座候処ニ五給之

名主中何分拾石出不申ニおゐてハ村中はちぶ

仕候由ニ而村中之者耆人モ伊右衛門方江出入不仕候様ニ嚴敷

五給名主中申付候由ニ御座候不存寄徒申掛難儀

仕候扱を聞濟不申とて村中徒党仕候儀者有之間敷

儀ニ奉存候其上私村役モ相勤罷有候処ニ我共ニ取上

申候往還御用向者自今御指支出来可申と奉存候

一父治郎右衛門存生之内弟幸助江高拾七石余分ケ呉候

処ニ治郎右衛門死後ニ至本家之私高三拾六石余之内

三分一奪取候巧ニ而幸助親子之者共私宅江踏込

種々惡口申騒動仕候全縣五給之名主中腰押ニ而

本家之私を押潰候惡巧と奉存候

右五給徒党之名主組頭並名前銘々不殘被召出

御吟味奉願上候村中之者共耆人モ私方出入不仕候様

嚴敷申付候上者いケ様之取存ニ有之候哉身分之程甚

無心元奉存候依之乍恐差急キ

御訴訟奉申上候御慈悲を以後介ケ被下置候様幾重ニモ御

憐愍奉伝候以上

能勢十治郎

高田忠治郎兩御知行所

豆州田方郡間宮村

名主 伊右衛門

明和五子年正月

御奉行所様

右之通御奉行様江御訴訟奉申上度奉存候間

御指出被下置候様偏奉願上候以上

豆州田方郡間宮村

名主 伊右衛門

子正月

能勢十治郎様

御役人衆中

高田忠治郎様

御役人衆中

右之通御奉行所様江御訴訟申上候依而

写差上申候以上

豆州田方郡

子正月

間宮村

名主 伊右衛門

此文言外御地頭様
差上候分

(八ヶ橋普請)

187 宝曆十二年二月

豆洲 下田 御普請
兩浦 往還八ヶ橋川石橋 仕用帳
出来形

八ヶ橋川

石橋御普請御修復御掛直シ 老ヶ所但 長六間 幅八尺

此入用

一橋臺柱石八本 但 長老丈貳尺

廻リ 老尺貳寸四方

是者橋臺柱石痛ミ よろび夫々埋低相成候ニ付少々之
出水ニも通路難仕助郷人馬三嶋町住還も難相成

ニ付先規々老尺高ニ仕此度新規ニ組立出水之節も
通路相成候様仕候

老本ニ付金老兩貳分永五拾文

此代金拾貳兩永四百文也 但之積江間村横根沢石ニ而山出し

矢崎川原々肥田前川船場届船ちん

諸掛りとも

一、人足八拾人

但壹本ニ付貳拾人掛

是者石柱石八本前川橋下船場ニ而水揚人足并御普請

小屋迄道法九町余持運一日ニ貳度持

此賃金貳兩老分永百三拾文八分 但老人前一日永貳拾

九文七分六厘之積

錢相四ノ貳百文

板石貳拾枚

但 長七尺八尺

幅老尺貳寸厚老尺

是者石橋長六間六枚並ニ而三拾枚之内打損シ候分此度
新規ニ取替古石拾枚摺合磨直相用候尤先規分老枚返
此度廣く橋幅仕候打石之儀者橋上下捨石に相用ひ候

此代金拾八兩貳步

但老本ニ付金三步永百七拾

永四拾文

七文 運賃右同斷

一、人足百六拾人

但老本ニ付

拾六人掛

是者石橋石貳拾枚肥田前川船場ニ而水揚人足并

御普請小屋迄道法九町余持運一日兩度持

此賃金四兩三步永拾老文六分

一、梁石四本

但長八尺老寸

厚老尺貳寸四方

是者右橋臺板所先規分壹枚通廣く仕候ニ付此度新規ニ
取替古石打不申分者土留石ニ相用候
此代金四兩也

但壹本ニ付 金壹兩積

狩野川矢崎小出并肥田前川
届舟賃右同断

一、人足三拾六人

是者梁石四本肥田前川船場ニ而水揚人足并御普請
小屋迄持運道法右同断

此賃金壹兩永七拾壹文三分六厘

一、履石八枚

但三尺四方

厚壹尺五寸

是者古履石痛ニ連々埋候ニ付此度新規ニ取替先規分
仕候

此代金五兩也

但壹枚ニ付金三步貳朱ニ積

川出届舟ちん右同断

一人足四拾四人

但壹枚ニ付拾壹人掛

是者右履石八枚肥田前川舟場ニ而水揚人足并
御普請小屋迄持運道法右同断

此賃金壹兩壹步永五拾九文四分四厘

一石垣六坪

但壹尺角

尻

是者兩橋臺石垣拾六坪之内拾坪者古石相用前後
土手崩候分六坪此度新規ニ仕候

此代金六兩三步也

但壹坪ニ付金壹兩貳朱積

川出届舟ちんとも

一人足貳百拾六人

但壹坪ニ付七拾貳人掛

石壹本ニ付三人掛

石数貳百十六

是者右石垣前川舟場ニ而水揚人足并御普請小屋迄
持はこび道法同断

此賃金六兩壹步永百七拾八文壹分六厘

一石垣貳拾貳

此坪貳坪半

是者兩橋前後石垣之上橋ニ貳尺通高居置 土留水除仕積
此代金三兩三分

但壹坪金壹兩貳步積

壹 付永百七拾文四分六厘

川出届舟ちんとも

一人足八拾八人

但壹本二付八人掛

是者石石垣石貳拾貳前川舟場_{ニ而}水あけ人足并御普請小屋迄持運道法石同斷

此賃金貳歩永百拾八文八分八厘

小以金六拾貳兩三步永七拾文壹分八厘

小八ヶ橋川石橋御掛直緒壹ヶ所 但長七尺五寸

一石垣五坪内

貳坪新規

三坪古石用

中六尺

但壹尺分壹尺貳寸

大小取受

是者両橋臺石垣連々崩候分石無御座候ニ付不足之分
貳坪新規ニ仕古者三坪相用候板石者磨摺合掛替仕候

此代金三兩三步也

但壹坪

壹兩貳歩

積り石大小取受届

舟ちんとも

但壹坪七拾貳人懸壹本ニ付

貳人掛石数七拾貳

是者石石垣貳坪前之川舟場_{ニ而}水上人足并小八ヶ橋 迄持運道法同斷一日兩度持

此賃金貳兩永百四拾貳文七分貳厘

道幅貳間

一持人足三百四拾三人

但道長六拾八間

壹坪貳人五分懸

坪数百三拾六坪

是者小八ヶ橋前々大八ヶ橋迄地所押流地窪之分六拾八間之内盛土壹尺六貳尺三尺通仕出水之時分も通路相成候様仕候

此賃金拾兩永貳百七文六分八厘

一金三兩也 是者左右御田地_{ニ而}上取場無御座候ニ付地代金ニ仕候

一土留石拾本分

但長三尺三寸厚六寸

巾壹尺

是者行瀬坂道ニ御座候而連々土押流往來道ほれ候間土留石居盛乍 不申様致し申候

此代金壹兩永三百三拾三文 但壹枚ニ付永百三十三文三分

山出し届舟ちんとも

但石壹本二付

貳人掛

一人足貳拾人

是者行瀬坂地所人足拾人并右土留石拾本前川舟場_{ニ而}水上ヶ御普請小屋迄持運とも

此賃金貳歩永九拾五文貳分

小以金貳拾兩壹歩永六拾四文三分五厘

八ヶ所用水落堀石橋之内

大溝橋

小溝橋 御掛直シ入用

一石垣貳坪八分貳厘

内 壹坪半新規

高三尺

壹坪三分貳厘古石用横壹間半

是者橋臺石垣前後土手崩候ニ付右壹坪半新規仕古者
取受板石者磨直シ相用候

此代金四兩貳分

但壹坪二付㊦㊦㊦㊦

山出し届舟ちんとも

一人足六拾貳人七分五厘

但石数五拾四壹ツ二付

貳人貳分五厘掛

是者右石垣壹坪半前川舟場ニ而水上人足并大溝まで

持運一日壹度半持道法拾七丁余

此賃金壹兩三步永百拾七文四分四厘

一板石貳枚

小溝橋

長四尺

巾壹尺五寸

是者小溝橋板石貳枚打損候間此度新規ニ取替外
古石磨直シ摺合掛直シ仕候

此代金壹分永五拾文

但壹本ニ付

永百五十文同

山出届舟ちんとも

一人足三人

是者前川舟場ニ而右板石水上人足并御普請

小屋迄持運橋掛渡候迄

此賃金八拾九文貳分八厘

橋長九尺

観音前川石橋橋臺石垣共

但巾四尺五寸

一石坪五坪

内貳坪新規

高㊦尺 横㊦尺

但石壹尺角々倍尻

三坪古石用

壹尺五寸迄

是者右石垣前後土手崩候ニ付此度新規ニ貳坪足シ新古人更

石垣丈夫ニ仕候尤橋臺連々下り候間此度高く仕板石磨

摺合用候

此代金貳兩三步永百五拾文

但壹坪ニ付壹兩壹步

永貳百文川出舟ちん共

是者觀音前橋前後道地所巾貳百長八拾間地窪之処壹尺余置土仕出水之節通路相成候様仕候

此賃金拾壹兩三步永百五拾四文

石数七十貳

一人足百八人

但石壹本ニ付

一金三兩也

貳人貳分五厘掛

是者右土取場無御座ニ付御田地之内地代差出土取申候尤跡々御田地ニ罷成申候

是者右石垣石前川舟場ニ而水上人足并道法十八丁

余持運一日壹度半持

此賃金三兩永貳百五文八厘

一杭木貳百五拾本

是者右觀音前坂道東之長五拾間通り田地者無之

惡水堀ニ而往來道崩候ニ付杭志がらニ而土留仕候積

一土留石拾本

但長四尺巾壹尺

此代金貳兩三步永貳百貳拾五文

但壹本付永十壹文九分

厚六寸

山出し届とも

是者觀音前坂道地高ニ而石橋へ取付候所低下ニ付まばらニ致土留居置出水之節掘出不申様仕候

一志がら竹

但道長貳間ニ付

代金壹兩貳分也

但壹枚ニ付永百五十文
川出届舟ちんとも

是者右土留石拾本肥田前川舟場ニ而水上并御普請

一人足五拾人

但壹間ニ付

一人足拾人小屋迄運持道法同断石居置迄手傳とも

是者右杭木拵打込并志から仕候迄

壹人掛

此賃金壹分永四拾七文六分

此賃金壹兩壹分永貳百三拾八文

一人足四百人

但壹坪ニ付貳人五分掛

一人足四百壹人

土取場五ヶ余

是者石橋取拂并石垣組直シ手傳足代人足石橋

掛渡迄諸色人足之分

此賃金拾壹兩三步永百八拾三文七分六厘

一石切大工三百七拾七人

三百拾五人成

内訳 三拾人 新坂石貳拾放増合仕入 壹放壹人五分掛

拾人 古板石拾放磨摺合仕入 壹放壹人懸

拾貳人 新 石八本摺合重 壹本壹人五分懸

六人 新梁石四本重摺合 壹本壹人五分掛

八人 新履石八枚重摺合居 壹枚ニ付壹人掛

貳百七拾九人 石垣 新拾四坪 古拾七坪 組立摺合壹坪九人掛

拾四人 土留石貳拾四本居置摺合手間とも

拾八人 小溝大溝觀音前小八ヶ橋板石拾貳枚

新古磨摺合板石大小平均壹枚壹人五分掛

小以石切大工三百拾五人 壹人ニ付一日永

永五拾文積

此賃金拾五兩壹步

手父雜用

小以金五拾八兩貳分永六拾貳文四分

合金百四拾壹兩貳步永百九拾六文五分四厘

金

飯橋入用諸掛

目論見別紙上ニ

都合金百五拾五兩三步永九拾六文五分

右之外御普請小屋并橋掛後足代本一式荷合棒

手こ木が、す縄古俵諸色入用品差出候

右之通先々之格ヲ以此度御掛替御普請

御目論見仕用帳相渡差上申候 以上

宝曆十貳午三月

肥田村願主

組頭 治兵衛

名主 彦左衛門

間宮村願主

名主 伴右衛門

塚本村

名主 半兵衛

江川太郎左衛門様

葦山

御役所

196 乍恐口上書ヲ以奉願上候事

一豆州間宮村下田往還通^リニ觀音前橋大八ヶ橋迄九ヶ所
 宝永三戌年國中掛^ニ御修覆被為仰付候大八ヶ橋之儀[㊤]
 北者間宮村塚本村御田地御知行所南者大久保吉之丞様御領分へ
 相懸申候右大八ヶ橋石垣落橋台下^リ柱石甚よろひ橋以
 痛最早難捨置難儀ニ奉成候當春中掛直御普請被為
 仰付被下様奉願上候八ヶ橋川水上之箱根山沢水並ニ
 鈴川落込候へハ少々之出水ニ荒川ニ罷成丈夫ニ無御座候^{面ハ}
 答へ不仕候勿論往手道年々流候へとも地所押流橋^ノ
 式三尺窪く罷成一兩年[㊤]往還之者出水之節怪我
 水死度々御座候而村方領分へ相懸難儀ニ奉存候殊ニ
 下田御用並往還通路平等御役伝馬罷出差支
 而罷成候何卒古來ハ老尺も高く仕前後地所
 橋^ノ猶又高仕出水之節通路無差支様仕度奉願上候
 右ニ付小八ヶ橋大溝小溝橋添御普請並急者
 前橋台石垣下り橋前後往還道地所押流
 是以甚地窪ニ罷成少々之出水ニモ通路留^リ各同様
 之儀ニ御座候間橋上地所御普請奉願上候 右
 御慈悲ヲ以先規之通御普請被為仰付往還
 差支無之様偏ニ奉願上候以上

宝曆十貳年 三月

242 八ヶ橋川

石橋御普請仕様目錄

但川幅九間石橋長廿間但石垣指出三間宛

此入用

橋台柱石八本 但長壹丈四尺宛

四方老尺貳寸角

此代金四拾八兩三分 但壹枚ニ付代金三兩三分ツ、

入足六十四人此貨八貫文積

石屋作料貳朱也

板石五枚 長サ壹丈中分

厚壹尺幅老尺五寸

地代金拾六兩壹分

人足四十八人分六貫又
 石屋作料五百文

同石拾枚 長サ九尺厚壹尺幅老尺五寸

但壹枚ニ付老兩三分貳朱人足四十三人石屋作料右同斷

此代金廿七兩三分

㊤石拾枚 長サ七尺厚壹尺幅老尺五寸

但壹枚ニ付三分貳朱宛

人足[㊤]十四人
 石屋作料四百文

此代金拾七兩貳分

梁石四本 長サ八尺厚壹尺貳寸角

但壹枚ニ付代金老兩壹分人足三十[㊤]人

此代金九兩也

石屋六百文

履石八枚 厚壹尺五寸ニ三尺四方

但老枚ニ付代金三分式朱宛

人足四十三人作料五百文

此代金拾五兩也

石垣拾八坪七分 但老坪代金三兩式分積り人足共

此代金七拾五兩老分永式百文

小以代金貳百九兩永式百文

⑤く木式拾八本 但老丈四尺⑤⑤

貳尺廻り

此代錢八ノ四百文 木老本ニ付三百文積

⑤⑤三拾六丁 但老丁ニ付五十文

此代錢老ノ八百文

⑤笠木十四本

此代錢老ノ四百文

⑤代板拾四間 但老間ニ付五百文積

此代錢七ノ文

人工手間 但十式人

此賃三ノ六百文

⑤板十四間 但老間貳百文積

此代錢貳ノ八百文

⑤走四十枚

此代錢六百六十四文

⑤俵百

此代錢八百三十式文

人足五百人

此賃五拾貫文 但老尺ニ付百文積

⑤金拾兩俵橋諸入用掛

金ノ貳百拾九兩永式百文

錢ノ七拾六貫五百文

此金拾四兩老分永四拾九文

惣ノ貳百三兩老分永貳百四拾九文

同金三拾八兩者柱石四本笠石貳本

板石七尺〇〇〇有形分引

内

金式拾貳兩者梁石貳本板石拾枚古石用候分引

殘金貳百拾老兩老分永百拾九文

宝曆十式_午年

226

仁田村

安永八年亥十一月日 塚本村

八ヶ橋御普請勘定帳 間宮村

右三ヶ村立合割

一國割合御普請金高

金八拾七兩貳分卜

永百九拾七文三步

内

亥五月十五日

金貳十五兩 受取

六月廿四日

同三拾兩 受取

七月八日

同貳拾三兩貳朱 受取

引残而

金九兩貳分永七十文三步

内極月

ツカ本

金三兩也

惣右エ門

〃

間宮

又三兩也

甚兵へ

〃

石屋斐山

又三兩一分

受取

斐山残金

金九兩貳分永七十文三步

内

石屋

金三兩壹分

⊗金⊗⊗

残六兩一分也 ⊗⊗

残四百五十文

此永七十文三步 丑三月廿一日

⊗⊗

濟

〃六分也 一ヶ年

太七郎渡

丑五月出金

〃貳分也 同人渡

丑三月廿一日

金貳兩渡シ間半左衛門殿

〃貳分⊗⊗ツカ本

吉エ門殿

間宮村仕役分

一錢九ノ四百 人足七拾人

五十四文 老人百廿文⊗⊗

〃壹ノ七百拾文 小買物品々

代

金三分

渡り始まき

壹ノ七十七文 餅代

〃貳ノ五百文 柱損料

分

〃四ノ九百八十五文 諸小拂

の分

ⓧ

金ⓧ七ⓧ

錢貳百三十壹文

錢六ノ貳

爰の處紙手すき

一切相分り不申其俣

ニ
写す也

右

雜用仮橋

諸入用

金三分

仮り橋

壹ノ貳百文

板代

ⓧ六百文

葦山進物

鯉節焼鮎

代

ノ八両貳分

錢貳十七ノ九百七十四文

外二

葦山進物

金壹兩貳分郡内渡代

〃壹分

出番諸入用

三ヶ村

都合金拾五兩

錢六百七十四文

内

七百元

ⓧⓧ

殘金拾四兩三分

壹ノ五百十四ⓧ

此渡方

五月十九日

金七兩渡

十二月

〃 三兩渡

丑三月廿一日

〃 壹兩貳分渡

ノ金十八兩貳分相渡分

さし引

金三兩貳分錢廿四文 渡過

外

三百 卅文

間雜用

後割拂

肥田村仕役分

錢十三ノ三百卅文 人足百人

老人百卅四文

〃 八ノ八百文

石運七人

金六兩三分貳朱

諸拂方

高

外二

錢十三ノ五百廿七文

金五兩貳分

預り金

未年ノ戌迄

老ノ百卅七文

諸掛共区高

外二

錢三百卅文

後割拂

可出

八ヶ橋

間雜用

韭山宿半左衛門方

雜用

金五十兩壹分

老ノ二百四十七文

右者未年より亥年迄五ヶ年

分雜用諸拂方

⊗

右金三兩渡ス

差引殘貳兩壹分

可渡分

老ノ三百十七文

内

金貳兩渡丑三月廿一日

丑三月廿一日迄

殘

錢老ノ三百五十老文

諸掛り

雜用共

引ノ殘

右是者三ヶ月跡割合以不

我等

塚本村仕役分

錢八ノ八百文

人足六十六人

老入百卅四文

一老ノ三百五十文

⊗⊗四ツ

右二品代

⊗代老ツニ付三百十六文

小家地代

金老分

一五兩老分

江戸路用雜用

〇十老ノ四百文

諸事入用共

未年より亥年迄

一百文

損料板代

卅文

杭木代

一老分式朱

右者此米江戸二而深田吉左衛門へ

分

⊗⊗兼 可申上候品代

ノ金拾両三分

⊗式十式ノ四百卅四文

⊗⊗⊗割

此金三両式分老ノ四百卅文

⊗⊗金九両老分

○老ノ四百三十文

内渡分

五月十五日

金六両渡

十一月三日

〃三両渡 十二月

三両渡

丑三月⊗⊗

〃老分渡 半七殿

丑⊗五月廿四日

〃式分渡 太左衛門殿

ノ金拾三両三分渡

さし引

石屋⊗⊗ト

金四両式分

板石筭石共

老ノ四十八文

都合十七本

〃式両式分

龍石百五十

八百八十文

八本

〃老両

右同断

三百八十文

三口合八両老分

内老分⊗

八百十六文

過有

〃六両式分

石屋手間

四百九十文

ちん

式百十八⊗ト

殘十八ノ百五十文

石式百十八人

雜用代

金三兩余渡過⊗⊗

寅七月十三日

金式分渡

由右衛門

⊗⊗多

夫三⊗ト

都合金十三兩老分渡

惣差引殘

金三兩三分

外金

⊗六十四文 渡過有

外二

三百卅⊗文 問雜用

諸割掛

可出候

〃老 石屋若衆へ

祝儀

〃貳百五十文 御用の⊗

染⊗⊗

〃三百五十文 木代

〃四百五十文 人足

三人歩

〃百六十四文 品代

四口

〃老兩百十六文

〃八百文 にら山小者衆へ

祝儀

〃十五兩

⊗貳十貳 〃五百七十六文

此金三兩三分七十六文

貳⊗

〃金十八兩貳分

⊗七十六文

此渡分

五月十五日

金五兩渡

七月八日

〃十貳兩渡

十一月三日

〃貳兩渡

〃三兩貳分渡 葦山

御役所二而

〃金廿貳兩老分渡し

さし引金三兩貳分渡過

〇老 〃四百⊗⊗⊗

此永貳百 六文

六分七厘

(用水)

377 乍恐以書付奉申上候

一当村用水堰所一件ニ付延享年中

御裁許御受證文御主意之通ニ前ハ

今般之願意右御主意ニ相振候様

相聞候へ共右御主意相聞候哉之旨御尊

ニ付奉申上候

此段訴狀ニ認上候通四ヶ村夜中の

時堰分水之儀は延享年中

以来只今ニ至迄

御裁許不相背御文言之通り

分水仕候儀ニ御座候間右

御裁許相皆候儀ニは無御座候

然共今般願立候平水之儀は村々

一同和熟之上御手合ヲ以四ヶ村

共平水引取候儀ニ御座候尤右

御裁許御文面ニも四ヶ村共入交り

飛地等も有之上は相互ニ和融之上

無差支様水可致置と

仰渡も御座候間右之通和融

ヲ以其砌より仕来り申候此上御裁許之

御趣意相背候儀ニ御座候而無御聞候へ共

今般奉願候堰所土臺高下之

義は時刻昼夜共堰切分水

ニ御聞候而も土臺高ク候而は水流

余程之通ひニ御座候間引下被

仰付被下置度奉願候右土臺

延享年中御裁許

御趣意之趣

御尊ニ付別

紙之通り奉候処

今般奉願上候

堰作[㊤]土台ニ

相拘り候

⑩

本文は本来[㊤]の

所に挿入される

べきものである

之儀は延享年中以来是迄

元形不相崩追々取繕^而已ニ而永統

仕来り候処去巳年初^而新規普請

致し候ニ付用水溝地元之間宮村ニ

御懸合之上立会ヲ受元形取拂

新規相仕立可申答之候処無沙汰[㊤]

手普請いたし元形古木類取

拂申候儀ニ御座候而元形より高く

仕立上ヶ候相違無之儀ニ付当春

中懸合および砌申訳無之少々

たりとも為申訳之右土臺引下

仕直シ仕候曆前之儀ニ御座候

此段[㊤]御慈悲之御賢察

奉願上候右申上候通り延享年中

已来新規普請無之儀ニ付

新規普請仕候へハ地元村立会ヲ

請不申候而は不相成儀は眼前之

儀ニ而無沙汰之取斗致候ハ筋違

不当之致方与乍恐奉存候右

用水路地元之儀ハ八ツ溝口より

分水ニ番溝筋は既ニ

御裁許御受證文面ニ而も

間宮村用水路被限リ有之候儀ニ

御座候此段

御慈悲御賢察被成下引下ケ

被仰付被下置候様奉願上候以上

文政五年七月三日

御知行所

豆州田方郡間宮邑

名主代善兵衛

組頭惣代

半藏

井出甚右衛門様

御役人中様

376 乍恐以書付奉願上候

御知行所豆州間宮村名主儀右衛門奉申上候当村

用水堰所出入是迄私[㊤]代百姓善兵衛差出置御吟

味奉請処今般私儀御呼出ニ付出府仕候得者善兵衛

義者婦村被仰付難有奉存候依之私^江右一件之

義御尋ニ御座候処論所土台高下之儀者出訴已前

立會之砌私儀病氣ニ御相給々村役人相頼立會

不仕候義に付寸方相耽^与申上兼候先土台より

高々相成候義者外御給々村役人共相改々相違無之

元[㊤]證據之儀御尋ニ御座候処前々より寸尺議定

有之候儀ニ者無之候得[㊤]当村^江無沙汰ニ大土肥村

之者共元形不殘取拂古木等も不殘相隠シ不殘

新ニ相仕立候儀ニ付今般出入および候儀ニ御座候私儀ハ

新[㊤]普[㊤]元来[㊤]之私[㊤]而御願申上候心底

無御座候得共水落方悪々候得者御取箇ニ相抱之儀故

御給々之者共相納リ兼候ニ御相手村方ハ御知行所

一圓[㊤]村方ニ御座候故無是悲御地頭所様^江

奉出訴候義ニ御座候間私儀一先婦村被仰付被下

置候ハハ御相給^並御知行所小前之者共ニ御評裁

御趣意^を以御利解被仰聞候趣篤々申聞度奉存候

間何卒以御慈悲右之段御聞濟被成下候様

奉願上候已上

御知行所

豆州田方郡間宮村

名主

儀右衛門^印

文政五年七月廿四日

御地頭所様

浦野庄兵衛様

164 乍恐久書付奉申上候

一、當村用水堰所一件付延享年中

御裁許御受證文御主意之通ニ而候処今般之願意

右御主意相守候哉之旨御尋ニ付奉申上候

此段訴狀ニ認置候通四ヶ村夜中とも時堰分水之儀

延享年中以來只今ニ至まで

御裁許不相背御文言之通り分水仕候儀ニ御座候

間右御裁許相背候儀ニハ無御座候しかれども

ハッ溝筋分水平水之儀者村々一同和熟之上

勝手含ヲ以四ヶ村共平水引取候儀ニ御座候尤右

御裁許御文面ニも四ヶ村共入交飛地等も有之上者相互ニ

和解之上無差支様順水可被致旨被仰度も御座候間

右之通和触ヲ以仕来り申候此上

御裁許之御趣意相背儀ニハ決而無御座候

今般奉願候堰所土臺高下之も者時刻

昼夜共堰切分水ニ御座候而も土臺高ク候㊤ハ

水流余程之違ひニ御座候間引下ヶ被仰付被下置度

奉願候右土臺之義者延享年中已来是迄

元形不相崩追々取繕而已ニ而永續仕来

候処去已年初而新規普請致候ニ付用水

溝地元之當村ニ掛合之上立會ヲ受元形

取拂新規相仕立可申筈之処無沙汰ニ手普

請以通元形古木類取拂申候儀ニ御座候元形より
高ク仕立上ヶ候ニ相違無之儀ニ付當春中

掛合および候砌申訳無之少したりとも為申訳之

右土臺引下仕直し仕候曆前之儀ニ御座候此段

御慈悲之御賢察奉願上候右申上候通

延享年中已来新規普請無之儀ニ付

新規普請仕候へば地元村立會ヲ請不申候而ハ

不相成儀而眼前之儀ニ而無沙汰之取斗致候ハ

筋違不㊤㊤之致方与乍恐奉存候右用水

路地元之儀有ハッ溝口より分水三番溝筋ハ

御裁許御受證文面ニ而も間宮村用水路而限り

有之候儀ニ御座候此段

御慈悲御賢察奉願上候以上

御知行所

豆州田方郡

間宮村

名主代

文政六^末年七月 善兵衛 ㊤

井出甚右衛門様

御役所 様

(年 貢)

160 乍恐書付を以御訴訟申上候事

一 豆[㊦]村御知行所去ル申之御取ケニ付八月

名主共被召寄御高免ニ被仰付候依之三ヶ村

名主連判を以御訴狀指上ヶ申候処御承引不被遊

故三福村勘左衛門罷下立毛御檢見奉願候へ共

御見分ニも御出不被遊田畑屋敷共留取御上ヶ御

高免之御取ケ被仰付何共大小之百姓難儀

仕候去申之稲作何年ニも無御座候惡作ニ御座候ニ付

御檢見奉願候へ共御見分も無御座 給様御高免

被仰付其上御口米出候様ニと被仰付候銘々御年貢

米者四斗ニ而相納来候へバ依之内ニ御口米入込申候

尤隣郷ニ而も御口米御取被遊候御方も在之候へ共俵入

三 入ニ而相納申候右之御並ニ被仰付御口米相納申

度奉存候事

一 先達而申上候通間宮村之義ハ三嶋町へ大助郷ニ而御傳

馬御朱印人足三嶋町小田原迄箱根山八里

之難所付送候大役相勤申候ニ付御相給様ニも

御用捨被遊被下候殊ニ近年打続作も違百姓

困窮仕候処ニ去秋作大之惡作ニ御座候間御檢

見奉願候へ共御見分不被遊 御高免ニ被為仰付

何共迷惑至極仕候御檢見被遊候御方其外御定免

御方ニも去申大分御引被下候処ニ殿様御

斗御高免ニ被仰付候御檢見被遊候御方御同前之
御取ケニ被為仰付可被下候事

一 當春名主伊右衛門被召寄納下り上納仕候様ニと御詮

儀之上名主永々御留置御返シ下被遊ニ付不及

三月十五日切御請負證文仕罷歸候へ共右申分通

惡作之義ニ御座候間銘々御引下ヶ可被下候処ニ

㊦[㊦]給様各別之御高免ニ被仰付何共

御皆納難罷成依之惣百姓越石共ニ乍恐書

付を以御訴訟申上候御慈悲を以御相給様御同前ニ

御取立百姓相統仕候様ニ偏ニ御意奉[㊦]以上

豆州間宮村惣百姓

勘左衛門 印

㊦[㊦]右衛門 印

仁右衛門 印

六左衛門 印

平右衛門 印

高田忠右衛門様御百姓 与四右衛門 印

平右衛門 印

久野伊兵衛様御百姓 宗右衛門 印

常右衛門 印

江原清兵衛様御代官所 清右衛門 印

三宅傳左衛門様御百姓 ㊦[㊦]左衛門 印

井出左門様御百姓
河野右近様御百姓

勘右衛門 印
兵衛 印

能勢重次郎様御内

若林孫右衛門殿

文政八酉年十二月

豆州間宮村

高田斧吉様御内

名主 伊右衛門 印
組頭 甚右衛門 印

山之上五兵衛殿

平岩五郎右衛門殿

武井茂右衛門殿

沢田為太夫殿

酒井勇左衛門殿

前書之通相違無之者也

戌二月

高田斧吉内

酒井勇右衛門 印

191 乍恐以書付奉願上候

御領分豆州君沢郡大場村百姓太兵衛奉申 ①

去丑年春々間宮村宗平所持之田畑賄致候内入口米

貳拾貳俵五步村方四郎左衛門ニ下作為致置候処去丑年

不納仕候ニ付去暮々数度嚴敷催促仕候得共一向 ② ③

不申無據村方役人中 ④ 右之役相願候所村役人中々も

當人 ⑤ ⑥ 組合之者共 ⑦ 嚴敷申付候得 ⑧ 等閑御座候

不納之分ニ左ニ奉申上候

入口米貳拾貳俵五步

内訳

拾六俵五升 田方

六俵壹斗貳升五合畑方

ノ貳拾貳俵五步

内

御蔵納拾壹俵

返し米六升六合

米壹俵貳斗四升貳合 田方野見引

米四俵三升五合 田畑草麦〇〇取

差引

米五俵貳斗九升貳合 全不納御 ⑨

御大切御收納之儀ニ御座候へバ地主間宮村惣平ニ相願

不納分郷御蔵 ⑩ 為持出上納仕皆済仕候左候得者

私不取斗 ⑪ 宗平方 ⑫ 難察も有之外小作之者振合も

惡敷相成申候ニ付又々村役人中江相願候所村役人㊦
四郎左衛門^并ニ組合之者共江申付候得共右様等閑ニ
御座候ニ付無余儀今般當御役所へ御願
奉申上候何卒格別之以御慈悲右四郎左衛門
親類組合之者共御呼出被成下置皆済致
候様幾重ニも奉願上候右願之通被
仰付被下置候ハ、難有仕合奉存候以上

御領分大場村

天保十三年^丑六月

願人 太兵衛

差添 惣左衛門

名主 又兵衛

松長

御役所

125 奉差上濟口證文之事

一武嶋内藏助知行所豆州田方郡間宮村

名主要七^ら當御知行所元名主繁右衛門^江

相掛り御年貢米三拾俵不納之役當二月中

奉出訴候ニ付相手繁右衛門御答申上候者右

不納米聊無之段申之彼是差縫候処前

立入人長平幸八出府仕候間両者並右長平
三人之者當御屋敷様^江奉歎願双方共
貫請内濟仕度候段奉願上候処格別之
御仁慮ヲ以御聞濟被下置難有仕合奉存候
然ル上者事柄相訳リ双方共聊申分無御座
内濟熟談行届偏ニ御威光^与難有仕合ニ
奉存候向後右一件ニ付^而者重^而奉願上候
筋毛頭無御座候依之以連印濟口證文
奉差上候為後日仍^而如件

豆州田方郡

安政六末年九月

間宮村

名主

要七

願人

親類

差添人 甚平

同村

元名主

繁右衛門

相手

親類

差添人

善七

親類

差添人 甚平

同村

元名主

相手 繁右衛門

親類

差添人 善七

同村

立入人 長平

柳町三丁目

大坂屋

願人宿 清右衛門

同町二丁目

御本陣

相手方宿 庄太郎

能勢省兵衛様御内

御用人衆中様

(箱根山秣場)

400 乍恐以書付奉願上候

去八月十二日御召出之上箱根秣場立木之場所

御林ニ御仕立被遊候ニ付村々へ右之儀被仰渡御請印

可仕旨被仰付候処御日延御願申上相談仕候処至而難儀

至極之儀ニ付再応御願申上六月五日御願申上候願書

御勘弁之上御聞濟被遊御慈悲ヲ以願出御取上ケ被下置

候ハ、村々難有仕合奉存候尚又惣代四人之者御召出之上

御利解被仰聞候間私共々村々へ及相談候処御利解之儀

奉承知則薪取村方之儀も是迄之通下草下木

等刈取候様仕度用水掛村之儀も立立木之分

先規之通り御立木ニ被下置候以後御伐拂無之御座候故

右ニ付御冥加永として式十六ヶ村合永⑧貫文御上納仕候様

奉願上候誠ニ少分之御冥加永ヲ以御願申上候も此方奉存

候得共困窮之村方ニ御座候へば少々之儀迎も難儀

至極仕候何卒御慈悲ヲ以書面之冥加永取上被相遊

村々一同奉願上候通り被相仰付被下置候様偏ニ御慈悲御憐愍

之程奉願上候以上

文化四年卯九月日

式拾六ヶ村

連名印

葦山

御役所

乍恐用水村々奉願上候

薪ニ差支難儀至極仕候且亦秣茹敷冬芝等

茹入も少く可相成候得は御田地養難相届奉存候家

根茅杯も右之場所ニ而茹取不申候得ば外ニ茹入

山共御座候養水掛村々之儀は此己後万々一右之

御場所御伐拂ニ而御座候而は先達而御願申上候通ノ涌

水少く相成御田地仕付養水ニ而難儀可仕奉存候殊ニ

此度被仰渡候御請書之儀右一件ニ付願之筋毛頭

無之候と申候御儀ニ御座候へは向後ニ至右御林御伐拂

ニ而相成候節難儀之次第ニ付御願申上候而は此度之

御請書を以御利解可被仰聞候得は其節一言之

申上様共御座候儀と存奉至而歎ケ敷御請印仕兼

罷在候依之何卒御慈悲を以御窺之上先規通りニ

被仰付被下置候様奉願上候左候へは村々小前一統難有

仕合奉存候若左も無御座候而は御恐も不宥候へとも

御奉行所様迄被召出候而も廣太之御憐愍奉

御請村々小前一同相助り御年貢御儀無恙相勤候様

仕度右願之通被為仰付被下置候ハ、難有

仕合奉存候以上

文化四年卯九月

御役所

谷田 中村 八反田 鶴喰 西谷田

竹倉 安久 間宮 塚本 青木

新谷 堀ノ内 梅名 中嶋 大場

小沢 多田 肥田 上沢 玉川

平内 両松本 長伏 壺丁田 仁田

大土肥 平井 大竹 桑原 川原谷

往還々南之方秣場入會村々

中嶋 梅名 安久 御園 長伏 両松本 平田

玉川 新谷 青木 八反田 鶴喰 中村 両谷田

竹倉 北沢 多田 大場 青木 塚本 肥田

仁田 大土肥 平井 上沢 大竹 桑原 堀之内

天保七申四月江戸池の端池田屋吉兵衛願入

にて御奉行所ニ而荒々御聞濟ニ相成候儀鉄砲洲

山口屋留七方へ仕入方被相願候ニ付根付村々相談

有無之処内意聞届度由ニ付入會村方相談の上

右木立伐拂ニ相成候而は養水村方秣場入會難儀

相成候由及相談尚又韭山御役所へ御届書写左之通り

乍恐

一箱根山秣場入會養水掛村々三拾ヶ村名主組頭

惣代豆州田方郡塚本村名主宗右衛門同州同郡間宮村名主
嘉兵衛同州同郡仁田村名主準助奉願上候右箱根山

秣場之内洞々ニ立木へ有之水涌出シ九ヶ村御田地養水ニ

引取来候秣場入会共老ヶ村之儀は右立木之内柴根

木下木苧取来り格別之助^⑧〃^⑧〃^⑧〃^⑧今般

右立木伐拂炭焼出シ申度由願人有之最申候

御奉行所様へ奉願上有増御聞申ニも可被成哉之由^ニ而

仕入方江戸鉄砲洲山口留七方へ罷相頼儀同人代之者

罷越故障有無聞届度村々へ内談有之得へ共右場所

代拂ニ相成候^而は難洪至極ニ付其段相断候^而兩人儀

帰村仕候共万一伐拂ニも相成^而は村々難洪至極難

行立奉存候は文化年中右同様被仰付候節も当御役所へ

奉願上早速御聞濟之上御伺被成下置其似被差置候儀

不行 事尚又乍恐当御奉行様^江此段御届奉申上候

私共村々之儀は兼^而御見知被下置候通養水掛村々之儀ハ

勿論雜木枯木柴等苧取来候村々迎も箱根山

八里嶮但遠継之場所御伝馬難儀候助郷村^ニ而

湯洗柴薪等差支候^而は御伝馬立継^ニも相抱り候様

之儀^ニ而奉恐入候尤未ダ被仰渡も無之以前御届奉

申上候は罷越御届之様^ニも相当候哉奉恐入候得とも

村々片時も案心不仕候間此段御届奉申上候此上伐拂

被仰付候儀も有其節何卒格別之御慈悲ヲ以

先規之通御窺被成下置是迄通立木其^ニ被

差置村々難洪差支無之様仕度偏ニ御憐愍

御取斗奉願上候尚委細御尋之儀は乍恐口上ヲ以

可奉申上候以上

天保七年申七月日

養水掛 三拾ヶ村

秣場入会 惣代

豆州田方郡塚本村

名主 宗右衛門

同州同郡間宮村

〃 嘉衛門

同州同郡仁田村

準助

葦山

御役所

300 取扱申證文之事

一此度御嶽大権現様森幸右エ門新田分り兼候ニ付

御内々御見分被成候所大松三本其外古木等有之殊ニ

地所も一段高古来より権現様御座被為遊西方は

地所も一段下格別古木等も無御座候得は此方新田ニ

189 内濟規定書之事

御座候半權現様御座被為遊候東方は地所も
高大本等も御座候ニ付宮地と被思召候段至極御尤と
奉存候然ル所私共取扱御願申上候は此節幸右エ門
御年貢御役米不納仕大難洪ニ罷有候而何卒
新田高八升九合免取米壹升權現様森添ニ被
役米御勤被下宮分ニ御入被下候様御願申上候所
御承知成被下幸右エ門始メ親類ともまで難有仕
合ニ奉存候為後日親類加印名主組頭奥印證文仍而如伴

天明八年 主 幸右衛門 印

甲之二月日 親類代 半右衛門 印

扱證人 与左衛門 印

同頭 与惣右衛門 印

村役人衆中
氏子衆中
被宣左右衛門殿

一前書之通相違無御座候 以上

名主 伊 右 衛 門 印
組頭 勘 左 衛 門 印

一斃牛馬捨場道之儀者無相替儀持
通り並作場道筋之儀茂是込之通
畑尻 江 通路いたし候様申堅メ右道筋
出水ニ而 欠崩候共有姿之道筋畑端 江
附寄通路相成候様可致尤多分欠
崩通路六ヶ敷相成候節者詮儀之上ニ
可致事

一字犬間之内妙藏寺持畑安久村
文蔵持畑之儀者今般取扱之通
訴訟人方 江 相當之代金を以買取
可申候尤畑尻 並 喜右衛門持畑地尻
立會之上杭木打境相定捨場 江
仕出し不申様可致事

一捨場所之儀連年出水ニ而 流失ニ相成
候ハハ其節者村用一統詮儀之上
弁利之場所を 見立可相定事

右ヶ條趣双方至極納得之上熟談
内濟仕候上者何後相互ニ違変仕間敷候

為後日規定書連印仍如件

能勢兵庫樣御知行所

訴訟方名主 喜右衛門 印

天保四年癸巳十一月 組頭 祐 助 印

百姓代利兵衛 印

久能伊三郎樣御知行所

相手 甚右衛門 印

組頭 林右衛門 印

三宅三郎樣御知行所

役儀

見習文右衛門 印

組頭 新 藏

武島四郎左衛門樣御知行所

組頭 文 助 印

能勢重次郎樣御知行所

名主 伊右衛門 印

組頭 惣三作 印

高田斧吉樣御知行所

組頭 仙 助 印

同 藤 助 印

井出甚助樣御知行所

名主 儀右衛門 印

組頭 平右衛門 印

大久保出雲守樣御領分

扱人 名主代清次郎 印

佐久間和三郎御知行所

仁田村

同 名主 順 助 印

水野出羽守樣御領分

平井村

同 久 久 久 久

(人別送り)

5 人別送り一札之事

人別送り一札之事

水野出羽守領分

豆州君沢郡戸田村

百姓忠吉娘

か弥

富戌貳拾一才

右之者此度其御村方百姓重藏方江

縁付遣し申候旨申出候ニ付當村人別除帳いたし

此段申送り候以来其御村法之通御支配人別へ

御差加可被下候爲後日人別送り一札仍_而如件

文久二戌年十一月 戸田村

名主

弥三兵衛 印

間宮村

御名主衆中

406 送り一札之事 (夏)

一 当村平助娘志か_と申者当己廿一才ニ

相成其次村方周助殿迄縁付申候處相違

無御座候此儀外より差構毛頭無之候

且又御法度之宗門類族ニ者決_而無御座

慥成_る者ニ付別紙寺手形相添差遣し

申候依之当方人別相除候間貴御村方

人別御加入可被成候爲後日送り一札

差上申處如件

明治二年

豆州君沢郡

己三月日

小海村

豆州

名主

間宮村

友右衛門 印

御役人中

407 一札之事

徳川新三位中將領分

駿州庵原郡

内房村

百姓源助叔父

勘兵衛

当己四拾四才

同村

百姓才作伯母

はま

当巳四拾八才

右之者義其御村方百姓半兵衛殿

相續人ニ差遣シ候ニ付当村人別相除

候間其御村方人別ニ御差加可被成候

且宗旨之義ハ代々禪宗ニ而別紙ニ而送

一札之通リ御相違無之候依之送

一札差出申所如件

右村名主

明治二七三月日

遠藤幸作

御用ニ付無印

組頭

利兵衛印

斐山知懸事

御支配所

豆州田方郡間宮村

御役人中

(手踊 角力)

24 差出申一札之事

私共村方ニ而若者共寄合手踊いたし候趣

斐山様ニ達御聴松長役所ニ御沙汰有之候

由ニ而村役人被召出御糺御座所一同御答

申上候者右様之儀仕候事一切無御座候得共

隣村間宮村ニ者左様之儀御座候旨申上

候ニ付右之段松長ニ斐山様ニ御返翰

御座候由仍而御村方御糺御座處全諸形も

無之儀、御覽被成ニ御糺否

可申上旨御答被申上置私共方ニ右一条御掛合

御座候所虚言ニ候段誠以一言可申上様

無御座候ニ恐入候ニ

然ル上者斐山

御役所ニ者ニ村方ニ可然様申訳可被成候

依之連印一札差出申候ニ

大場村

百姓代

要蔵印

組頭ニ衛印

同ニ衛印

又兵衛印

梅名村茂兵衛印

中嶋村

間宮村

孫七印

御役人衆中殿

234 詫入申一札之事

村内廣渡寺鎮守祭札ニ附休日被仰渡
候處若者共少々相寄角力取始ッ候處休日之
事故參詣人追々相集ッ候ニ付自然角力相催シ
候様ニ韭山表へ御聞ニ御達御出役様御越為有
村御役人衆御呼出ニ預ッ既ニ本しらべニも可相成
乃處押^而歎願被成下依之御聞濟ニ相成
右ニ付重^キ御詫書御差出ニ被成候上者村内
若者共向後人寄^ケ聞敷儀決^而致間敷旨
被仰渡奉畏候然^ル上者向後御割事之趣
急度相慎可申候依^而詫書差上申候^{如件}

安政四年

八月 日

源 七
宗右衛門
重 藏
甚 藏
由 藏
林 藏

吉 藏
兼右衛門
利 助
伊 助
友 八
由左衛門
弥兵衛
善 七
久右衛門
幸右衛門
⑤ ⑤
清 七
常右衛門
太三郎
善右衛門
與 助
長 藏
常 藏
專 助
吉兵衛
元兵衛
多兵衛
徳 藏

村御役人衆様

周 蔵
平 助
清左衛門
用 助
林 蔵
乙右衛門

(身元引請)

101 差上申一札之事

一、私悻治助義此度江戸本所松井町
問部熊五郎様御屋敷御奉公ニ差上
申所実正ニ御座候。此度御役印被下
千万難有仕合奉存候。此者義ニ付私共
御請ニ罷立貴殿方ニ少も御苦勞相懸
申間敷候。為後日引請證人加判仕
差上申候仍而如件

天保十四年

村

主 甚八

印

卯十二月日

大場村

親類伊助

印

拾三兩也内貳兩三分

去ル辰

組合丈八 印

別紙證文へ印形致

置修は春ニ甚蔵差上可候

間宮村

人主 甚八

證人 伊助

名主 惣平

御名主

南江間村

伊右衛門様

御名主 川蔵殿

129 差上申一札之事

一、私悻治助義此度江戸本所松井町
問部熊五郎様御屋敷御奉公ニ差上
申所実正ニ御座候。此度御役印被下
千万難有仕合奉存候。此者義ニ付私共
御請ニ罷立貴殿方ニ少茂御苦勞相懸
申間敷候。為後日引請證人が制仕
差上申候仍而如件

天保十四年

村

主 甚八

印

卯十二月日

大場村

親類 伊助 印
組合 丈八 印

拾三兩也内式兩三分当卯分

壹分辰暮分有之

別紙證文へ印形致

壹分春甚蔵差上可く

間宮村

主 甚 八

證人 伊 助

名主 惣 平

御名主

南江間村

伊右衛門様

御名主 周 蔵 殿

131 為取替一札之事

一家名相續方之儀此度拙者より御任せ
被成貴様事一分ニ相成渡世相励候段
致承知一同添仕合存候然上者向後不
限何事此方ニ而取斗家名相續相成候様
可心掛候且又近々迄貴様宗門人別帳入
有之候處此度役方迄御願被成名前
相除候旨此方よりも同様相届相済申此上者
向後違約無之為存念連印一札相渡
候處如件

伊兵衛 印
天保十四年
親類 後家
卯

四月十六日

久兵衛 印
平 七 印

傳八殿 組合

御本家 清 助 印

御親類中 孫 七 印

147 差入申一札之事

私儀連々困窮ニ而渡世相成兼依而各方種々
御相談の上御申被聞候儀も有之辱存候得共勘弁
仕候處迎も監合六ヶ敷才近甚我儘ヶ間敷相成り
何其恐入候得共御願申候は他へ出弁利の場所借宅
等も仕候ハバ又いづれも一兩年ヶ間ニ取付方も可有之処
右の趣御願申入候處御組中御近所の衆中御相談の上
被申聞候は他村へ住居致居候而も万々一如何様の
迷惑之事出来之儀も難斗いろ／＼御利解御座候へ共
何とも立行兼候儀ニ而押而御願申上候ニ付然らば他
住居の内はたとへ兩三年にも致せ組合ニむすび
居候儀は難相成組合御除候成候積尤追々渡世
相勵取付ニも向帰村も致候節は是迄同様組合ニ

むすび被下候含取^ニ而當時はいづれへ越住居致し
候うち如何様の儀出来仕候共決而御構無之様
被乍聞御尤千萬承知仕決而他住居之内は
御組中々無之事^ニ付如何様の儀有之候共御苦勞
相掛不申候前書取付^ニも相成婦村仕度候節は
御願可申候間御取村被下先同様御組中と相成
渡世仕候様御見捨無之様願上候依之親類
近所のもの共連印一札差入申候處仍而如件

天保五年午二月

問宮村宮川

主

永左衛門^印

大場村

親類

喜久右衛門^印

惣代

甚助^印

近所

由平^印

半兵衛^印

永藏^印

五人組

甚七殿

興平殿

永助殿

甚藏殿
伊平殿

前書の始末御座候^ニ付何卒

両三年の間住居致候様

一同御願申上候以上

組合惣代

伊平^印

組頭

惣兵衛^印

御名主

伊右衛門殿

238 差上申一札之事

一私儀数年之間不将^ニ付既^ニ先年

父上^ニも江戸表迄御訴被置候仕合^ニ付是迄

数度御詫も仕候得共身分相改不申^ニ而

御間済も無御座候処又候此度親類其外を以

御嘆申上候処父上^ニも御年積此節御存命^も

難斗彼是色々之儀御考弁之上以御

慈愛内々出入御差免被下置難有仕合

奉存候然上は尚又格別実躰仕渡世
 相勵毛頭貴命ニ相背申間敷候私義
 右振合之身分ニ御座候得は向後御家相統
 其外之義何ニ而も御掛合等無之候共
 一言之儀不申上思召次第可仕候万一御不
 幸等ニ而も有之候共御家相統之儀ヲ
 第一ニ仕我忒故障等一向申上間敷候且又
 此以後御無心ケ間敷義一切申上間敷候
 万之一異変之儀も申上候ハ、加判人引請
 少も御苦勞掛申間敷候為後證親類
 其外加判之一札差上申処仍如件

文化五年十一月

当人 周 助
 證人 利 助
 清君衛門
 与左衛門
 忠 助
 弥左衛門
 良 蔵

宗 助 様

親類

397 差上申一札之事

一此度葦山様より被遊御出役私共江 御乱筋
 御座候而其上各様方江御預ケニ相成候ニ付
 毎夜御廻リ長々之間御苦勞奉懸重々
 恐入奉存候然ル処再三御歎願被成下置
 候分漸昨四日 御役所表御願下被成下
 難在仕合ニ奉存候然ル上者向後之儀農業
 出情相勵外渡世等仕間敷且此上者少々
 たり共儲事者勿論触御事候不埒筋
 御座候ハハ何様被仰付候共一言可申上様無之
 御座候此度之儀全恐入急度改心仕候ニ附
 親類組合引請相互ニ是迄ニ違無御掛念
 御聞濟被成下候様連印一札差上申候
 処依 依 如件
 嘉永式年

西十二月五日

間宮村

当人 の 婦
 組合 平蔵
 " 太 吉
 " 嘉 助
 親類 安五郎
 当人 久右衛門
 組合 徳 蔵

〃 作右衛門^印
親類 傳 蔵^印

当人 彦 八^印
組合 文右衛門^印
〃 徳 蔵^印
親類 吉左衛門^印

御役人中様

(助 郷)

232 差上申一札之事

東海道三嶋宿之儀所及困窮人馬繼立方差支
候ハ趣入御徳先達^而道中為御取締御廻宿有之候
御勘定様方外御用席御糺之上右宿之儀天明
年中人馬賃割増ニ錢助郷へ引渡方ニ付宿役人とも
不将之取斗有之其節熟談之上助郷并宿人足
勤方等之書面差入候以来街道筋御定外之人足
百人過勤いたし困人馬も度々出入之節ケ条ヲ以遣拂方
不相當之儀定致置宿助人馬遣拂ニ付心得違

④々之趣も有之同宿助郷川原谷村外六拾三ヶ村之
もの共も三嶋宿助郷享保度御證文高三万貳百
四拾貳石之處右川原ヶ谷村外四ヶ村者御證文
高不足川原ヶ谷村外八ヶ村者過ニ相成御證文高
差引高五百拾七石無^⑤附減高ニ相成居右之分従来
助郷ニ^而不勤罷在候始末夫々御吟味再應宿柄御糺
之處既ニ三嶋宿之儀前段之通數拾年来人馬
過勤立之誠ニ餘宿と違ひ下り方者街道第一之
難場箱根峠八里持通シ遠路引請罷在追々
困窮致詰當時者宿人足百拾七人馬者三拾疋
存分て^⑥問屋場着到無之無^⑦儀難決迫り
去ル午年以来種々助郷之勘弁請相勤候上
去申年之儀十二月迄宿助郷熟談ヲ以宿方ニ
有丈ヶ之人馬差出し外貳拾疋買上ヶ五拾疋ニ
都合致シ相勤^⑧餘之人馬何程入用之儀有之候共
惣助郷ニ^而引請相勤候筈議定之上日々人馬繼立
罷在難儀困窮之段相違無御座候ニ付逸々御
吟味之上右天明度三嶋宿助郷人足過勤之
遣方認差入候書面并寛政度以来宿助郷
度々出入済江議定爲取替ヶ条之趣何連も
不相當ニ付向後御取用難相成候ニ付今般
別紙ヲ以同宿人馬指立飼仕付方其外下り
箱根宿繼馬立拂等者勿論宿助郷人馬遣拂

方速々心得有之候廉々共勤方之儀夫々被仰渡
是迄宿人足日々式百人持立候内百人過勤者

改式千五百人之割ヲ以テ大通リ宿方觸當之
度人足五拾人迄ヲ限相勤風雨雪中荷
形目嵩等之増手當改共却而不相當之儀無
之樣時宜ニ寄雇上ヶ等有之候共是又
相當之對談いたし夫々支配之差図ヲ請
可相勤旨被仰付候

但

三嶋宿ニ而申立候右五ヶ新田之もの共往還稼方
助成之儀者兼而宿間村々御觸も有之御取㊤㊤
筋ニも相拘リ目時之隙ニ相成候間加宿被仰付候上者惣而

三嶋宿江熟談を以取斗五ヶ新田のものども

荒荷物持定仕付賃并荷形目嵩手當

錢之儀多分我意不申立支配之差図ヲ請問屋

場より觸當次第荒荷持共相勤㊤㊤㊤㊤

稼者は迄之通勝手ニ相稼可申三嶋宿も人足

遺方之儀箱根山難所遠繼通八里之場所ハ

餘宿与違利別之繼立方ニ付御名代等却而之

御用物并尾州紀州薩州其外重キ御通行

等之内間々荷形目嵩之荷物又者 駕籠

式人持之分杯ニ限五ヶ新田之もの共へ為持通御定

無目人足掛歩合之長持或者引戸駕籠三人

持等之持能キ類を宿人足而ニ而持返候様取斗
候而者五ヶ新田之もの共及難儀加宿被仰付候㊤も
無之間三嶋宿ニ而右躰之取斗無之様五ヶ新田
荒荷持のもの共宿方荒荷物之跡ヲ雇人足之
前遣之見斗を以諸荷物渡方輕重ニ相調無

甲乙様宿方ニ而遣立可申旨被仰渡候

右之通被仰渡候間宿助郷加宿助郷者和触

之上老人若輩弱人馬等不差出正路ニ相勤右

年季下三嶋宿もの共精々人馬仕付方等宿柄

取直候様取斗年季明ヶ候者別紙被仰渡之通人馬ヲ

拂方之趣宿助郷とも堅相守御定人馬無滯持立

可相勤旨被仰渡候且年季明之節者其段宿助郷

御訴可申上旨是又被仰渡候趣一同承知奉畏候若

相背候ハ、御科可被仰付候仍而御請證文差上申処如件

天保八酉年四月廿八日

201 天保八酉年四月

三嶋宿一件御請證文字

豆州君沢郡

差上申一札之事

東海道三嶋宿之儀所々及困窮人馬繼立方

差支候趣入御聴先達而道中筋御取締としへて

御廻宿有之候御勘定様方御用節御糺有之其故

尚又外御用席宿村 御糺として御代官 山

九八郎様平岡文治郎様兩手附御手代衆被差遣

最寄手明村々をも御糺之上以來三嶋人馬持立

方之儀者東海道御定宿並之通上り下り之 其差出

百人百疋可持立内開人馬者專御用筋非常之開方者

箱根宿へ附参戻、節同宿役荷物引受候節者以來

三嶋宿ニ而相当貸錢請取助郷内之もの共ニ而も沼津

宿迄繼通し其外平常為稼与罷出候分も前同様

相心得三嶋宿荒荷物持人足定仕附方も五ヶ新田

之荷物者格外之定賃錢取極方我意不申立

相当之手当向後人とも相對取極雨天風烈雪中

其外時候之ⓧ氣等ニ寄少々ツ、荷形目嵩之手當

増亦者相對雇賃之儀有之候共右も其時々賃相場

過分之高賃無之様心掛三嶋宿も五ヶ新田荒荷物

人足遣方等加宿ニ被仰付候上者宿人足同様ニ相心得

荷物之輕重見斗之上ⓧ而無甲乙様爲持立右

五ヶ新田之儀荒荷物者全五拾人之仕付迄ニ付

可用立もの相撰申付置家別高割等ニ出人足可致

筋ニ無之間其旨相心得賃錢取定方之儀者宿方

并荒荷物者支配之差圖請可相勤旨被仰渡候

一、三嶋宿并助郷村々之もの共三嶋宿役人共者天明度

ⓧⓧ所宿役人共助郷へ對し上ⓧ之一札差入候以來御定

人高之外蔭立人馬を唱江下り箱根山越翌日持立

備之人足百人前日より立揃置候ⓧ相ⓧ從來百人宛

過勤致宿方困窮ニ落人馬難持立様相成候申也

加宿之ⓧ仕付方別紙ヲ以被仰付候間其旨も相心得

銘々人馬仕付方者日々御定御繼立方專一之宿備

ニ付相互ニ不差障ⓧニ持立可申濟三嶋宿之儀も

一 宿馬持立相成候連下り方泊差湊致馬繼立之砌

御定立馬之内勝手次第立拂に而者箱根宿者東勤

宿馬一時ニ引請繼立及難儀間箱根宿繼馬

差湊候節者同宿立馬八拾疋并東勤村々仕付馬

五拾疋都合百卅疋之餘斗者可成丈三嶋宿より不繼立様

取斗箱根宿ニ而者兼而小田原宿上りをもⓧⓧより 繼箱

根泊、ⓧ一同三嶋宿へ通達致三嶋宿者箱根宿泊り

繼立方并小田原宿上り馬亦者其日之上り下りⓧⓧ

馬等見斗置時宜ニ寄下り方大通片繼上り方砌者

助郷之者共へも申違朝遣ひⓧ下り馬繼立方ヲ宿

馬者五拾疋位ヲ限差略致助取馬を以も繼立

其日之後遣江上下共順々御定馬之内立拂候様

相心得不申川原ヶ谷村之もの共者三嶋宿馬仕付方

之儀馬飼料給分等も是迄通心得宿役人等 談之上

飼仕附差圖次第ニ宿持立方相致塚原市之山

三ッ谷笹原山中右五ヶ新田之もの共も箱根宿設馬

上り方へ荷物附參候砌者格別三嶋宿より賣荷等

相心得日々宿方ニ備置自餘之遺拂者致間敷助郷

村々之もの共儀村高者先年御渡被置候御證文之通

相心得可申但箱根宿之儀者 山中ニ而立助郷も無之

馬繼而已之儀ニ付東勤宿ニ之助郷者爲持通來

宿立馬之内ニ而も雇馬之㊦者相互ニ先前より繼通

來ル共箱根宿雇馬者三嶋宿寂書助郷内村々之

雇兩分に而殊ニ里数近三嶋宿雇馬者八里難場

繼越其日歸リニ不相成雇上賃錢も㊦ニ甲乙有之

上者以來宿雇馬其時之鑑札相渡繼立繼通之

儀者相止宿馬給仕付之儀も箱根宿ニ而者東勤坂中

村々其外三嶋助郷内江式十五疋門都合五拾疋

宿馬飼仕付ニ仰付箱根宿雇馬等之宿馬代リニ

被成 候上者向後者勝手次第相對を以 宜敷

場所へ者 飼仕付之上随分宿馬持立方相互ニ

無差支様取斗三嶋宿人馬仕附方も享和度隣

村川原ヶ谷村ニ宿馬仕附之儀ニ付箱根宿及故

障㊦砌㊦議定有之者共右殊箱根宿へも其後

在仕附馬儀被仰付有之上者以來三嶋宿ニ而も

最寄勝手ニ見斗飼仕付可申尤今般餘馬之儀者

川原ヶ谷村荒荷物持人足之儀者五ヶ新田ニ三嶋宿

右難波之儀も御定人足減方宿相統等申立候

當時之役人共致成候儀ニ者其之右之仕㊦ニ相㊦

是迄通人足繼立來東海道宿并人足立拂方

御定ヲ忘却致罷在助郷村々之もの共もニ御勸

定様方道中筋御取締御廻宿有之候砌迄從來

助郷村高御證文面ニ齟齬致無謂減方亦者通高も

有之差引惣高五百拾七石減高之上助郷不勤

罷在候段宿助郷共不埒ニ付急度御糺被置候

右之通被仰渡一同㊦奉畏㊦㊦㊦㊦㊦

可㊦仰㊦㊦㊦御請

江川太郎左衛門御代官所

天保八酉年四月廿八日 東海道三嶋宿

役人惣代

年寄 六大夫

同

東海道三嶋宿助郷

豆州君沢郡

谷田村

外六拾六ヶ村惣代

大久保仙丸領分

同州同郡桑原村

名主 政五郎

小塚織部知行

同郡堀之内村

名主 七右エ門

大久保出雲守領分

同郡

右川原ヶ谷村惣代

名主 藤左エ門

江川太郎左エ門御代官所

同郡

塚本新田

市山新田

三ッ谷新田

笹原新田

山中新田

右五ヶ村惣代

塚原新田

名主 与左エ門

三ッ谷新田

与頭 儀兵衛

同人御代官所

大久保仙丸領分

東海道箱根宿

役人惣代

御代官所分

年寄

五郎左エ門

(大久保)

仙丸領分

八百屋佐五郎

道中

御奉行所

西年中三その遠藤方より

持参写 也

間宮村

吉田氏

(酒造)

35 五ヶ年季酒造株諸具借請申一札之事

酒造株 壹

但シ造高三拾石

此為敷金拾兩也相渡

酒道具 一式

但シ別紙明細横帳之通

右式廉借受金壹ヶ年

金拾兩宛相定

右者貴殿御所持之株並道具一式当卯十二月より来ル申

八月迄五ヶ年季ニ相定我等方江借受申処実正ニ御座候

尤外株式与違賃借不相成義ニ付則双方熟談之上

表向者讓受候次第に致し置元来貴殿方与者格別

懇意之間柄ニ而當時其許方身上向仕法のた見御相談

被成候義ニ付右株代鋪金与して当金拾兩也相渡相済

尚又株並ニ道具代損料として壹ヶ年金拾兩ニ相定

五ヶ年合金五拾兩之内来辰巳兩年金拾七兩式分宛

五月晦日限相渡午年五月金拾五兩相渡合金五拾兩

相渡候上ハ年季中我等方ニ而酒造渡せ可致候然ル上者

年季明申九月ニ至リ貴殿方々株敷金之内金五兩

御差戻し被成候ハバ右株式者不申反諸道具迄も不殘御返し

可申候右者元来其元家名相続方仕法之た見実意を以

御相談仕候義ニ付仮令其節外金銀取引等有之候共其

儀ニ不拘御対談之通金五兩也御返済被成候上ハ聊無違交

相渡可申候尤年限中道具手入之儀者我等方ニ而

取繕道具代金ノ義ハ金四拾兩与見積置万一非常有之節ハ

半代金式拾兩者我等方ニ而無相違相償殘金式拾兩者其

許方ニ而御勘弁可被成㊦是亦対談致し候所相違無御座候

為後日為取替借受一札差入申処依而如件

三島宿

借主

安政二卯年十二月

半兵衛 ㊦

同宿

證人

三右衛門 ㊦

中村

同

九郎左衛門

川原ヶ谷村

嘉左衛門殿

304

取極メ申規定書之事

一 田方組酒造中間是迄三嶋組一同ニ相成来候ニ付宣段ニ付張紙たる之儀も三嶋中間より相渡し右ヲ以賣酒致し居候得共宿郷之差外ニ而時ニ寄殊之外不都合之場合茂度々有之間只今々田方組會合之砌リ郷相場相定メ取極メ之外決ニ而不洩様賣捌キ可申尤御連中之内折悪く不純酒出来候ハハ其最寄中間内ニ而相談仕合格外之損毛ニ不相成様急頭合斗可申事會合之儀者春夏秋冬年内三度相立可申三嶋張紙之儀も請置申度候右之通り中間一同ニ而取極メ連印左之通り候以上

文久貳戌年九月

行司

梅名村

清次郎印

大場村

宇兵衛印

問宮村

惣助印

仁田村

大八郎印

長崎村

佐兵衛印

多田村

五右衛門

松並村

藤左衛門印

奈古谷村

又右衛門印

北條村

佐兵衛印

同村

勇左衛門印

内中村

幸助印

南條村

彦八印

同村

直平

古奈村

伊右衛門印

同村

甚左衛門印

江間村

豊 八印

同 村

彦 藏印

原木村

平 吉印

御園村

七郎右衛門印

長伏村

儀兵衛印

丹那村

為三郎

一豆州田方郡間宮村能勢重治様

御領分地主伊右衛門殿組下ニ而

水掛常右衛門与申者平常

伊右衛門与心を合せ同村名主喜右衛門

方御領分地江者分水依怙ひるき

有之趣喜右衛門方百姓一同遺恨

差㊦居候由ニ而喜右衛門悴ニ而

清左衛門与申者近頃私新縁

取結兄弟之契約茂相定

罷有候処右之趣清左衛門夜中

態々尋㊦㊦何卒伊右衛門様

方へ役㊦正直之風脉爲致

度由ニ而私へ疑筆相頼ニ付

前書兄弟ニ茂相成候義ニ候得者

無余義右疑筆仕差遣し

候處厚礼等相延ニ而立歸り

申候處 寅十月中私妹

義喜右衛門方離縁ニ相成

上訴迄ニ茂及候始末次ハ㊦

祐助通㊦ 賀清左衛門不㊦

量より㊦事差起り殊ニ法

外之申分㊦㊦有之私義も

疾与勘弁致見候処右様之

(公 事)

94 疑筆被相頼候一札之事

清左衛門後日如何様之不法

申候[㊦][㊦] 存候態々

不存[㊦]事 一札書遣

申候写[㊦] 何様之 調

㊦成候^面も其節者可[㊦]可申立

様無之候得者聲清左衛門より

達而 紛無御座候然

無[㊦]之[㊦][㊦]事被畏存難

存人中へ一札差入申候依^面如件

天保三卯年三月 ㊦[㊦]村

百姓代

㊦次郎

間宮村

御名主

伊右衛門殿

112 一札之事

一去酉年中貴[㊦] 御領主様^江金子御用違候

処御返済御行届兼候依之返済方之儀貴殿方

御引受被成追々御返済仕之殘金八両貳分有之処

御改革之思召立て居不足之儀種々御無心被成候

間無余儀半金四両壹分受取殘金御不足

致則證文御返脚申候為念一札仍^面如件

南紺屋町

天保十五辰年二月 家持

半兵衛^印

能勢新三郎様

御知行所

名主中様

124 以書附奉願上候連印一札之事

一當稻作立毛御見定之上格別之

御慈悲ヲ以御用捨被仰之旨難有御請

可 申上土処心衛違ヲ以[㊦][㊦]之引方

願上候ニ附今般

御地頭所様御出役御願として御惣代

御出附被遊初て 一同相談

仕^ッ候所今ニ以心衛違前非後悔仕候
此上御出役様御 未奉請候^而者如

何様之御仕置被仰附候とも一言申開無
御座誠ニ以恐入奉存候間何率格別之
御慈悲ヲ以

御地頭所様御願[㊤] 被成下置候様
偏ニ奉願上候然ル上者向後何事不寄
被仰出之旨一同改心急度相守可申候
依之前連印^ヲ 以奉願上候以上

安政三^ニ年

㊤月

㊤惣代

清藏 印

長八 印

清助 印

久藏 印

伊兵衛 印

六兵衛 印

文助 印

平吉 印

村

御役人中様

165 差出し申一札之事

一去ル文化式子年暮御屋敷より三ヶ村^江御用金被仰付候ニ付働方
相成兼候ニ付同三廿年春駿河町御奉行所^{ニ而}三ヶ村名^口か^口
證文ヲ以金七拾兩拜借仕御屋敷^江御上納仕候右金子文政三^巳年
迄五ヶ年元利割済之積ニ御座候御屋敷より御下金之儀は年々三福
村御物成代金にて引取当中ニ相成式拾兩式朱御下不足ニ相成居候
然ル処此度御兩村より御しらべ有之一言之申訳も無之次第二候
へ共不包申述候

御屋敷よりは年々御物成代にて引取駿府役所^江は利金^而上納
致置元金七拾兩残り御座候処当年御役所より證文書替被仰付候ニ付一
乍赤面無據書替之儀御無心申候所御兩村御不承知之段御尤至極
奉存候得共此節歟先にて混雜仕候得は村中難儀仕候儀歟敷
存ニ付私共引請当暮迄之内ニは元金返上納方家財諸色
田畑等何れ^江成とも無心申入売払右代金^ニ万一不足仕候ハ、私共
如何様共取替金子調達仕御役所^江皆上納可仕候間何卒
三ヶ村連名書替證文印形偏ニ御願申上候右様私共引受仕候
上は向後如何様之儀御座候共御兩村^江対し少茂御苦勞
懸申間敷候為後日引受一札差出し申候仍^而如件

三福村

名主

善右衛門^印

組頭

文政七年

申四月日

引受人

瀧 藏^印

御用人中様

百姓代

引請人

瀧 仙藏^印吉^印

親類

由右衛門^印

長崎村

御名主中

惣百姓代^印

間宮村

同

五右衛門^印

166 御請申一札之事

一伊右衛門より私^江分地之義先達^面立入

之者共取斗趣伊右衛門方より書附

ヲ以御同申上候処御聞濟之上猶亦

御不知書之ヲ以被仰渡恐入奉畏候

以来御下知之趣急度相守以後

本家分地之義相弁毛頭無心ケ

間敷申間敷候并御下知之趣急度

相慎可申候依^面御請一札差上

申候以上

御知行所

文政七年^甲二月日

豆州田方郡

間宮村

能勢吉三郎様

百姓

周 助^印

184 御記一札事

一當稲作之儀去^ル九月中定例之通御見分御評議之

上風早損之場所者不殘御相對之上成丈之

御憐助可被下無難之場所者格別之御慈悲ヲ以

入口米壹俵ニ付四升也被下置候段被仰渡一同

難有御請可奉[㊦][㊦][㊦][㊦]心得違以不相當之

御引米奉願上候ニ付種々御理解被仰聞候得共

御請不仕不埒之段被仰渡此般 御出役

御願として御出府被遊条誠ニ奉恐入是迄厚く

御理解之件[㊦]篤与勘考仕一同評義仕候處

莫大之心得違ニ而仰^ヲ背^キ不埒之段先非

後悔之外無御座此上者御出役様 御糺

奉請候而者何様御咎ノ被仰付候哉重々奉恐入一同

恐怖仕候間是迄之心得違御免助之程幾重ニも

御詫奉願上候處猶又此上之御慈悲を以御聞濟

被成下御上様御願下被成下置一同

安心難有仕奉拜服候然ル上者向後銘々改心仕

己を謹萬事[㊦][㊦][㊦]守可申候

一御公儀様御法度諸事嚴重可相守者勿論

別而近年天災打続御時節柄相弁何事も

相謹御政事大切相守可申事

一何事ニ不寄御差図之外村方小前打寄候事者

勿論此度ハ相改三人と打寄候儀決而仕間敷如

御法度急度㊦㊧㊨候事

向後諸向御申渡之儀者 御給□様以御手切

組親共江被仰渡候旨承知奉畏候其組々以手切

御請可奉申上候事

右之過此度一同改心之上㊦㊧㊨㊩㊪㊫

心得 之者㊬㊭於て者其組々二而急度相糺

御願可申出候依之小前一同連印一札差上候處

依而如件

安政三辰年 一月

平 七 印

甚右衛門 印

久 助 印

儀 助 印

常 七 印

文右衛門 印

丈 藏 印

榮 吉 印

與三右衛門 印

清 藏 印

直 藏 印

清 吉 印

惣 七 印

治郎右衛門 印

七 藏 印

㊦右衛門 ㊦

幸 助 印

惣 八 印

友 八 印

多 吉 印

安 八 印

勇 七 印

忠 七 印

茂右衛門 印

吉 藏 印

清右衛門 印

長 七 印

長 藏 印

政 吉 印

茂 八 印

嘉兵衛 印

平 藏 印

右惣代

平 ㊦ 印

村
御役人衆中様

清藏	清助	久藏	六兵衛	長八	伊兵衛	文助	百姓代	幸藏	源藏	源助	与八	徳藏	多平	④助	證人	林右衛門	只八	太助
印	印	印	印	印	印	印		印	印	印	印	印	印	印		印	印	印

185 差上申御請一札之事

一當田方立毛之儀七月十五日稀成
 供水八月十二日又候洪水大風ニ付甚
 見劣候処例年之通御毛見
 坪御様し被成
 御役人中様御評議之上高場
 一統之処も風障り有之ニ付入④米
 老依ニ付米八升之御引米被下置
 底場水腐の場所は皆無或は
 式分毛三分毛ニ相成候間右之分は
 地持相對勘定可致旨被仰渡
 一統難有仕合ニ奉拝服候然上は
 来し十二月廿日限り皆済可仕
 万一差滞 者御座候ハゞ親類
 組合引請急度相方附可中候
 為後日御請連印一札差上
 申候処如件

安政六年

十一月日

一今般貴殿々我等拾八人相手

取理不尽出入申立

曲測甲斐守様被成御訴訟来

子三月廿五日御差日之御裏

御尊判以裁被相附候ニ付拝見

奉典然ル上者御差日々四日以前

廿一日朝五ツ時返答書式通持参

致差添人一同右御機様へ着

御届ケ可致旨被仰渡候趣御達し

被出是又承知仕候尤御尊判

表裏共墨附移シ等無御座拜見

慥ニ預置申候依之一札差出申所

如件

文化十二年

百姓丈右エ門悻

十二月晦日

相手 丈助

〃

知行所五人組惣代半蔵

〃

百姓由左エ門悻

〃

相手 宗左エ門

〃

知行所五人組惣代政蔵

〃

百姓恒左エ門悻

〃

相手 儀助

〃

知行所五人組惣代吉左衛門

百姓直左エ門悻

相手 甚右エ門

〃 知行所五人組惣代善兵衛

百姓 〇〇蔵

〃 惣代 権七

能勢新三郎知行所

百姓安兵衛悻

相手 由左エ門

〃 知行所五人組惣代久右エ門

百姓儀右衛門悻

〃 〃 栄蔵

知行所五人組惣代 忠右助

百姓 平右エ門悻

〃 〃 平蔵

知行所五人組惣代安右エ門

百姓安右エ門悻

〃 〃 嘉助

知行所五人組惣代半右エ門

百姓浅右エ門次男

〃 〃 源蔵

知行所五人組惣代太郎右エ門

百姓藤兵衛悻

〃 〃 藤助

〃 知行所五人組惣代傳左工門

百姓 彦七 悴

相手 理七

〃 知行所五人組惣代源左工門

百姓 傳左工門 悴

〃 基七

〃 知行所〃惣代藤兵衛

百姓 彦兵衛 悴

宗兵衛

組頭絶故五人組なし

高田兵庫〃〃〃

百姓徳兵衛召仕

清助

⊗⊗⊗五人組

三宅傳左工門

なし

組頭

勘左工門

高田兵庫知行所

名主

惣助

組頭

宇兵衛

三宅傳左衛門知行所

名主

甚兵衛

組頭

半蔵

井出甚右工門知行所

名主代

儀右衛門

組頭代

庄右衛門

久野金之丞知行所

百姓 悴

相手 甚右衛門

五人組惣代

彦兵衛

右者書落仕候ニ付添書仕候

此儀不調法故私共奥印

仕申候以上

名⊗

名主 宗助

〃 甚兵衛

〃 儀右衛門

270 差出申一札之事

一私儀去亥十一月十六日惣鎮守

三嶋官御祭礼ニ付翌十七日之休日

願ニ付貴殿今般及出所

曲渕甲斐守様ニ而當時御吟味候之処

全躰右休日願ニ罷出候もの共は夫々

親共も有之儀百姓名目之者を相頼

村方御役人中江願出候処無其儀

郡屋住之もの共ニ而卒忽ニ願段ハ

ⓧ之私共ⓧⓧ重奉請御吟味候而者

申訳無之奉恐入候間以來右躰之

願等仕間敷旨ニ而貴殿方江御託

申入候得は御承知被下置添存候然上は

自今御給之御ⓧ人中御取極之通

堅相守右躰尽我成願等仕間敷候

依之一札差出申処如件

豆州田方郡間宮村

十八人之もの惣代

丈助印

栄蔵印

文化十二年子年四月

間宮村

訴訟人

佐五右衛門殿代

喜右衛門殿

289 差出し申一札之事

一此度御地頭所々先納金百兩也右三ヶ村江

被仰付候処出来兼貴殿江御無心申右之

金子百兩也貴殿方ニ而御出し被下候ニ付右

先納金御返納御屋敷ニ差支ニ罷成候ハ、私共

兩村ニ而引受御屋敷非ニ御知所へ掛合仕意

度引取貴殿江少し茂御捐茂掛申間敷候

急度引取御勘定相立可申候其為一札

差出申処仍而如件

文化十一年

三福村

名主 善右エ門印

長崎村

名主 角右エ門印

間宮村

吉田宗助殿

(借入れ・預り証文)

6 差入申一札之事

一 近來別種々御工風ヲ以小前一同
御引立ニ預リ御蔭ヲ以村内追々出精相
なり行可申段重々難有仕合ニ奉存候
就而者當年御田地預リ人多分ニ罷成
候ニ付他作人預リ内御引あげ押而相願
候処免ニ角立用致し呉候様御収
斗向種々御迷惑相掛ケ候ニ付何程
御引上ケニ相成村内一同江無甲乙御預ケ
被下置候上者追年一同相互ニ出精仕
農業無怠慢相勤ノ可申候且また
旧冬も一札差上候通リ追而十二月十五日
可仕候尤不行届之者出来仕候ハ
其組内ニ而早々取組皆済日前ニ急
度埒明可申候爲後日連印一札

如件

文久二戌年

正月 日

小前

平吉

印

〃

清蔵

印

〃

与曾右衛門

印

〃

長八

印

〃

佐平

印

〃

栄吉

印

〃

多吉

印

〃

惣右衛門

印

〃

吉蔵

印

〃

茂右衛門

印

〃

川八

印

〃

久蔵

印

〃

長蔵

印

〃

丈蔵

印

〃

嘉助

印

〃

長七

印

〃

林蔵

印

〃

久助

印

〃

甚右衛門

印

〃

清助

印

〃

由蔵

印

〃

常蔵

印

〃

周助

印

〃

常七

印

〃

次左衛門

印

忠助	清吉	伊八	清八	惣七	松右衛門	傳藏	直七	文助	七藏	甚助	与八	多平	源助	源藏	幸藏	組頭 德兵衛	喜助	六兵衛	友右衛門	文藏	宗二郎	林右衛門
印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印

御名主

惣四郎殿

隼太郎殿

外

御名主中

113 一 札

一 先年私養父良藏義貴殿御方ニ而給所米五拾俵

御借仕右代金御勘定相立不申不埒至極ニ付佐兵衛立入

殘金拾五兩余之處拾五ヶ年賦ニ御願上證文差入候処良藏

急病ニ而相果跡式不埒成行居候処右跡式私相続仕

罷在候ニ付右年賦金之義御差図行之右之趣

御屋鋪様迄被仰達候ニ付當又御屋鋪様より

右始末方被仰付奉㊦入直平立入并先掛佐兵衛兩人ニ而

御詫申上候処右殘金拾五兩余之分拾五ヶ年之内年々

米老俵宛差上可申旨御願上御間濟被下置候処右

年賦米之義も年々差上不申不埒至極何共可申上候様

無之猶又御屋鋪様江被仰達候旨被仰聞奉恐入

孝左衛門立入并佐兵衛兩人ニ而猶又御詫申上候処格別之思召ヲ以

右相借罷有候米㊦ニ當卯年々来子年迄中年

拾ヶ年之内老ヶ年ニ手間拾人宛差上何様ニも相勤メ

皆返濟之義御願上候処誠ニ御厚意御慈悲之思召ヲ以

御聞濟被下候段何共可申上候様無御座難有仕合ニ奉存候
跡式相續相成候義當人親類者不及申上立入候兩人迄
一同難有奉存候右御聞濟無之候而者何様ニも致方無之
候義ニ付幾重ニも難有奉存候然上者何時御用筋
被仰聞候共早速罷出何用ニ而も被仰付次第急度
相勤可申為後證一札入置申候処仍而如件

長崎村

天保十四卯年九月十四日

常人 常右衛門印

證人 直平 印

證人 佐兵衛 印

〃 孝左衛門 印

間宮村

126 差入申一札之事

一私親類彦八儀慥成者ニ附貴殿
御持地入口米壹俵也家敷地當
午年ノ戌迄五ヶ年之間居宅ヲ相構
申度御願申上候處御聞濟被下
難有奉存知候陳ル上者當人儀
如何様之儀出来候共私共引請
聊成共御迷惑等相掛申間敷
早々取斗ひ可申候且御年貢之儀

十一月晦日限利急度上納可仕是又
急度引請無滞皆濟可仕候萬一
思召ニ不相叶儀出来仕候得共何
時ニ茂家敷早々明渡し可申候
其節一言茂申上間敷候為後日
連印一札差上申処仍如件

借主

安政五年年

彦八印

十月十四日 請人

與八印

御名主

伊右衛門殿

237 差入一札之事

一私親類甚八儀慥成者附貴殿
御持地入口米壹俵式斗三升五合同
式斗五升之家敷地當年より戌迄
五ヶ年之間居宅相構申度御願申上
候處御聞濟被下難有奉存知候
然ル上は當人儀如何様之儀出来
候共私共引請聊成共御迷惑

等相掛申問敷早々取斗ひ

可申候且御年貢之儀十一月晦日

限り急度上納可仕是又急度引

請無滞皆済可仕候万一思召

不相叶儀出来候得ば何時ニも

家敷早々明渡し可申候其節

一言も申上問敷候為後日連印

一札差上申処仍_而如件

借主

(扶持)

9 覚

豆州田方郡

間宮村

間宮惣四郎

其方儀同村名主隼太郎

後見骨折相勤候ニ付老人

扶持被下置候依之申渡候

もの也

地頭所 ⑩

元治二丑年

二月 渡邊宗輔 ⑩

覚

其村方名主役相頼申候諸事

是迄之通取斗方頼申候依之

下知書仍如件

弘化三_牛年三月

久野内

岡 好右衛門

原 右衛門

豆洲間宮村

伊右衛門 殿

表書之通申渡置候者也

久野 卯

覺

一米壹俵

但四斗入

右者先年金子被差出置候処追々

皆済ニ相出尤無利足ニ而被差出深切之義ニ

被存依之爲御挨拶書面之通其元生涯

差遣被申候間年々收納相済次々名主

九右衛門ノ請取可被申候以上

三宅三郎内

鹿野登代蔵印

嘉永四亥年二月

表書之通相違無之もの也

三郎 印

一私弟孫七儀幼年之時其御許

方江養子へ差遣し申候処右

同人儀年來之養育も不敵

段々之不行跡ニ付今般無余儀

私方江引取申候然ル上者右孫七

儀ニ付貴殿方此上少も御

苦勞相掛申間敷候爲後日

一札入置申処仍而如件

當人

弘化五_中年三月孫七

大場村

兄

半七郎

間宮村

御近所

衆中

御組合

右孫七諸跡式之儀御一家

御親類ニ而宜敷相續方

御頼申上度此段継書を以

申上置候以上

(差出金下ヶ方)

20ノ一 一札之

20ノ二 覚

十月五日

一、

六日

一、百六十六文

七日

一、

十二日

一、

十一月一日

一、式朱

直ニ受取也

一、式朱

一、式朱

一、式朱式百八文

久ノ出し

宮川一条

にら山へ御頼

状被遣候様

申遣

村之方

山木ニ而

酒とうふ代

久ノ三宅へ

書状若もの

一条申遣

久ノ出し

宮川一条

山木下代へ

礼惣印

若もの一条

同断

久五郎方へ

若もの一条

雑用

一、

一、

宮川一条ニ付

仁田大トヒ塚本親類式度

右礼酒式升ツ、惣右衛門入

ノ村役人代親類惣右衛門代老人

行也

御屋敷へ者御頼更々入不申役

久五郎申候事ニ付手札斗也

84 下 知 書

一金八両

元金百貳拾兩拾五年

割済壹ヶ年分

一金貳兩壹分

元金四拾七兩壹分貳拾ヶ年

永百拾貳文五分

割済壹ヶ年分

一金貳兩永百文

元金貳拾壹兩元居置

宮川一条
相済候書状

御用代入

久五郎方へ

酒一斗

利足下ケ未年ノ元御下ケ之積

一金八兩

元金八拾兩元居置利足

下ケ元未年ノ下ケ之積

天保十五辰年二月

高須安左衛門^印

一金貳兩

元金四拾兩元居置利足

下ケ右同斷

前書之通相違無之もの也

吉田惣平殿

一金三兩

松井宗助濟方金壹ケ年

分

能 新三郎^印

一金壹兩

沢の井濟方金壹ケ年

分

114 下 知 書

七口ノ金貳拾六兩壹分永貳百拾貳文五分

外

米五俵宛

但

年々拾五俵宛御下ケ可有處三ケ年之間如此

未年ノ拾五俵宛御下ケ之積

此度勝手向幕方之儀本家并同性立合之上

其村方ノ差出有之候口々金左之通下ケ方

取極候然ル上者伺ニ不及年々收納代ニ而引取残の分

十二月十五日限り皆済可致候且右代收納永の外幕方ハ

一今般吉田伊右衛門方ノ御普請金貳百兩
用立呉候間右引取方之義者其三ケ村
御物成ヲ以三ケ年之内引取候様申付候間
其旨相心得年々御物成無遲滞
同人方^江相納候様可被致候仍下知書
奴件

地頭

天保十三壬寅年二月

役所 印

未年月々出金割左之通

月々金三両宛 但御雜用也

金五両 三月

同貳兩貳分 五月

同五兩 七月

同三兩貳分 九月

同三兩貳分 十二月

外皆済目錄ニ有之候口々御下ケ

當申年出金割未年之通り

来酉年之儀者三月金五兩之内半金貳兩
貳分七月五兩之内半金貳兩貳分ノ金五兩
減し可申候尤本文ニ有之通リ酉年より
丑年迄五兩宛減し候積規定相違無之候
且又三福村收納之儀甚以不埒ニ付此度
出役之上精々申付置候間當申年ノ
十一月中出役之上手取立致 貴様方江
右收納不殘引渡可申候此段茂吳々々規
定致し相違無之候以上

新庄長門守家来

天保七_申年六月

牧野 邊^印

地頭所用人

中野藤五郎^印

吉田伊右衛門殿

358 書 附

角 印

當午年ノ來ル辰年迄十一ヶ年々間先納

殘金江拾五俵つつ差向相渡ス 仍而當村

役宅江罷越十二月廿日限り請取可申

もの也

地頭所 ^印

土屋織部 ^印

安政五_午年二月廿八日

豆州田方郡

間宮村

長平へ

(領 収)

18 覚

名主衆中様

一金三拾三兩壹分ト

百兩三ヶ年割之元

永八拾三文三步

利金六兩也

己年七月より十二月㊥

元利金三拾九兩壹分ト

迄

錢五百五拾文

右者三ヶ年割濟金元利共慥請取申候以上

弘化三己年十二月八日

大場村

又兵衛

間宮村

御名主 宗平殿

23 覚

一金三拾兩也

右者證文金之内慥ニ受取申候以上

弘化四_本年二月

田〇屋

半平_印

当洲

44 覚

金三兩貳分也

右者去ル卯年正月貴殿方へ相渡候能勢

兵庫様知行為丈間畑地之儀当丑季作ニ付

右金三兩貳分也貴所留主中之事ニ付弥次平殿へ

相渡差入置申候證文面御送被成慥ニ受取此

面御互出入無之候 後日之ため仍而如件

安久村

嘉永六丑年正月

主右馬之助

間宮村

證人 惣平

間宮村

清左衛門殿

此書面弥ニ平願ニ付認_㊥也

ひ久

59 覚

弘化四丁未年十月十五日

一智透院義浄梵子 靈

弘化四丁未年十月二十日
一本因正果童子

右式靈為月牌料分

被成御納慥ニ致寺納分

拾七年之間月牌㊦

回向供養怠惰不可有

嘉永七寅八月二日

身延東谷

豆州田方郡間宮村

吉田惣兵衛殿

73 覚

先祖代々諸精靈

一樂院理性日徳居士

文政四^辛己年

十二月十五日卒

福田院妙理日性大姉

天保十一庚子年

八月十日卒

梅顔院妙香日順居士

天保十一庚子年

十二月廿九日卒

右四靈為月牌料金四百足

被成御納慥ニ致寺納今年より

十七ヶ年之間月牌相満ル忌日

回向供養怠慢不可背者也

身延

天保十五年 東谷

辰三月廿日 覺林房

伊豆國田方郡

間宮邑

吉田惣平殿

145 覚

一元金拾四両也

利金壹両分

永六百八拾文

去亥六月御普請
御用途金七拾両上納
五ヶ年割済御下

當卯済切

右之通ニ請取申候以上

辰

高田斧次郎内

二月十一日

板橋喜三郎㊦

間宮村

名主

伊右衛門殿

(金錢等の貸借)

247 乍恐以書付御願申上候

豆州田方郡間宮村高田忠治郎知行所名主治郎右衛門
奉申上候は私組下百姓専右衛門と申者去西極月八日夜

右専右衛門方より出火至來仕折節風惡敷御知行所

大場村御百姓家数三拾軒余類焼仕難儀至極奉存候

依之火元専右衛門儀は当日より他国仕罷有候所ニ小高之百姓ニ

御座候得共御用地并往來御役致方無御座候ニ付右之趣

当村廣渡寺妙藏寺中嶋村春明院右三ヶ寺被及御間

大場名主中江婦村之御訴訟被成下候所ニ類焼中得心之上

右三ヶ寺被仰聞候は對専右衛門江向後何之申分無御座候間

致婦村候様ニと大場村名主中より右三ヶ寺被仰渡ニ付専右衛門

小家掛ヶ仕幾重ニも忝仕合奉存候然所當日五日之夜

専右衛門宅江大場村類焼之者三拾人余徒党仕押懸ヶ専右衛門

申候は金子五拾兩貸給候様ニと申候ニ付専右衛門下方ニ暮

罷有候所ニ右徒党之者申候は是悲借請申所存ニ御座候

無左候ハバ名主方江案内仕候様ニと嚴敷申候ニ付無是悲

伊右衛門方江案内仕候得は右三拾人之者伊右衛門申候は

伊分専左衛門申付五拾兩貸候様ニと押申候専右衛門方

金子無之候ハ、貴殿方ニ取替可給候貴殿難取替候ハ、

御地頭何分五拾兩御願可被下候と申候得共他領之儀ニ

御座候得は何分取次き申儀相成間敷旨申切候左候ハ、

専右衛門方江罷越五拾兩相当り候品何ニ引取り可申と

様々筋違之儀申罷婦申候ニ付右之趣大場村名主中

相届ヶ申候得は類焼之者共難儀ニ付無心申候由と名主中

挨拶ニ御座候得は旁々以不得其意儀ニ奉存此上如何様

不法可仕も相知れ不申難儀至極奉存無是悲御訴

申上候乍恐大場村徒党三拾人之者共被為御召出

御吟味奉願上候委細は御尋之上口上ニ可申上候偏ニ

御慈悲之御意奉願上候 以上

明和三年 戊戌月

豆州田方郡間宮村

願人

大久保吉之丞様

古奈

御役所

246 乍恐以書付を御訴訟申上候

豆州君沢郡三嶋町本覚寺末

三宅源左衛門知行所

同州田方郡間宮村

日連宗

訴訟人 妙藏寺

嗣堂金滯出入

元利金高三拾三兩

永七百廿五文式分式厘

常御知行所

相手 名主 伊右衛門

同 證人 勘兵衛

源兵衛病死悴

同 治郎兵衛

訴訟人妙藏寺申上候先住代当寺嗣堂金四兩

当伊右衛門祖父伊右衛門^江預置年々式割之利足是相添

勿論入用之節は無相違致返金候筈^ニ為質物伊右衛門

所持之字向田^ニ上田壹反三畝分書入證文先住之

節祖父伊右衛門より取之置候所先住病死致候砌

㊦㊦之事故当伊右衛門親治郎右衛門^江取置候由^ニ而

拙僧後住職相成候節且家立會右證文拙僧

方^江引渡取持罷有候然所^ニ廿五年己前申年迄

年々右金子利足無忘相濟候得共其後一向

相濟不申候得共右治郎右衛門且頭之儀^ニ而寺も段々

大破^ニ候之間手前^ニ而取斗置一方之為寺之^ニも

可致旨申聞候^ニ付任其意指置候所右治郎右衛門当成

七月中病氣に罷有候^ニ付右金子之儀一應

治郎右衛門方^江相尋候所悴伊右衛門^方江委細申付置候

間氣遣致問敷旨及挨拶候^ニ付則右之趣当伊右衛門

^ニも親治郎右衛門存命之内得と相断候所其後治郎右衛門

病死仕跡式当伊右衛門相続仕候^ニ付猶又

右之段及対談候処右嗣堂金之儀借用一切

無之杯と我似申取合不申拙僧申掛処無之様^ニ

申難儀至極仕候尤拙僧入院之節什物帳^江右

嗣堂金も書加有之儀尤治郎右衛門方よりも定之

通申年迄は利足相濟申候得共其後一向元利共拙僧

方^江毛頭請取候覚無御座候捨置候^而は当月㊦之

金納且家^江も申訳難立其上精霊之供米無之

段々寺も及大破候^而修復金^ニ可致趣意も潰末代

寺之難儀^ニ可相成と奉存無是悲御訴訟申上候

御慈悲を以右相手方之者被為召出御吟味之上

證文^江什物帳面之通相濟寺相続上候様被為

仰付被下置ハ、難有仕合^ニ奉存候以上

三宅源左衛門知行所

豆州田方郡間宮村

日蓮宗

訴訟人 妙藏寺

印

明和三年

十月

能勢十治郎様

御役人中様

248 乍恐書附を以奉願上候

一間宮村古来百姓四拾人余有之出精作仕候節御年貢

御役無置滞相勤候得共連々困窮仕其上先年

ハッ溝水論^ハ其年朝鮮人琉球人通行^ニ而多分

金子相掛其後^ハ村方宜敷無御座不作打續罷有候

處去年又候不作申中麦作夏毛^ハ替様秋作^ハ過半

不作仕候^ニ付村方百姓惣代として長藏老人罷下御訴

御願申上候所御聞濟不被下成無是悲罷歸去暮

嚴敷取立申候得共極月廿五六日時分迄三割四割之引

方申立埒明不申候間同役百姓打寄内請仕貳割半三

割之引方仕勘定相立申候者も有之末^ッ才覚取掛相濟
不申候者も有之候右之通引方相立其上往還

御役米ハ指出御歳貢ハ米有之候分取立申候得共

百姓^④行詰^リ取續候義難仕近郷^ニ而才覚相

働申候義相調不申誠^ニ去年ハ三嶋宿不残火失仕

甚借用等^之指支罷成取立候義不及力御上と對し候

得ハ申分々無御座不調法之仕合了簡候間分別^ニ不參候義

百姓之義ハ皆々相潰十方^ニ暮罷有候村方作人ハ無御座自

分之作仕候力ハ無御座田地荒地と仕候義恐多何分村方

相立不申候年増し住還御役ハ余斗相掛當年ハ三嶋

宿火失故別而勤方も在郷^ニ多分相掛申候助郷困

窮願之義三年前^ハ御公儀様^江三四人相詰メ

御願申上候得共未^ッ御聞濟無御座其上加助郷之御

役金助郷^ニ而取替罷有候処及出入江戸結罷有候彼是困窮之

義御勘弁ノ上何卒潰切候百姓御取立候義何分

御届申間敷候間且今少々宛^モ田地指和作仕候村百姓之

分取續作仕度御願申上候御取成御慈悲ヲ以御来

三拾六俵御川捨被下成候様偏^ニ奉願上候去寅嚴敷命

義仕取立申候故當春ハ百姓去夏^ハ麦ハ無御座来月^ニ相

成申候得ハ及飢^ニ候義曆然^ニ罷有氣之毒難義^ニ奉存候

去暮ハ久野伊兵衛様御役人様御取立御出之所

埒明不申御越年被成漸御帰府被成候御仕合^ニ御

座候何分此度村方取續之御救御慈悲偏^ニ奉

願上候御尋之委細口上ニ可申上候 以上

豆洲 問宮村

明和七年 寅二月日

319 文化八年

御貸附金拝借證文質地帳

武嶋四郎左衛門知行所

未正月 豆州田方郡長崎村

拝借人

長 蔵 印

未亥迄 差上申拝借金證文之事

五ヶ年掛

一金壹兩貳朱者

但シ年老割五分

右者御貸附金此度奉願拝借仕候処相違無御座候利足之儀者年老分五分之勘定ヲ以十二月五日限リ上納

可仕候依之御水帳書拔質地證文差上申候右質地ヲ

以外御役所 而 拝借不仕候右者御用金之儀ニ付

何時返納被仰付候共違背不仕其節假令

水旱損等之凶年御座候共其段不申上急度

返納可仕候若シ相滞候ハゞ右質地御取上御拂

可被仰付候其節御拂代金 而 返納不足仕候ハゞ

加判人持地差上若シ質地買請人無御座候ハゞ

加判人者勿論村方江引請金子調達仕急

度返納可仕候其節難儀仕候ハゞ何様之御料

も被可被仰付候且又右御金ハニ手前金ヲ

以御貸附金杯と偽リ外に貸出し候儀決而仕間

敷候若シ右様之儀仕相顕候ハゞ是又御料

可被仰付候爲後日連判證文差上申

処依 而 如件 武嶋四郎左衛門知行所

文化八年 豆州田方郡長崎村

未正月

拝借人

長 蔵 印

證人

市郎右衛門 印

百姓代

小 七 印

組頭

弥次右エ門 印

名主

幸右エ門 印

江川太郎左衛門様

御役所

差上申質地證文之事

写添済

一上田老反八歩

但し老反ニ付金四兩替

代金四兩^ッ永百六文四分八厘

193 乍恐以書附御訴訟奉申上候

右者御貸附金老兩式朱拝借仕候付質地として書面之

地所質地入直候^ヲ以代金附仕差上申候右質地之儀親類ひ

其外^ル差障^リ候者無御座尤外ニ質地ニ書入等仕候地^面者

無御座候右質地之儀御水帳と引合相違無御座候此うへ

檢地出来仕候ハ、其段早速申上外地所引替差上

可申候万一拝借金上納差滞ハ、右質地御取上何ヶ

様^ニも可被仰付爲後日質地證文差上申処依^而如件

武嶋四郎左衛門知行所

文化八年

豆州田方郡長崎村

未正月

拝借人

長 藏^印

證人

市郎右衛門^印

百姓代小 七^印

組頭 弥次右衛門^印

名主 幸右衛門^印

江川太郎左衛門

御役所

前書之通り相違無御座候

武嶋四郎左衛門内

平田藤左衛門^印

賣掛并 滯出入

貸金

連雀町

金兵衛地借

源七煩二付代

召仕

訴訟人 重藏

文化八末年より

能勢十次郎様御知行所

同 九申まで

常右衛門

金四兩式分式朱錢五百四十七文

同[㊦][㊦]年^々

天保二卯年迄

金貳拾七兩一分二朱錢貳百五十九文

伊兵衛

同六己年^々

天保三辰年迄

三宅三郎御知行所

金五拾老兩式分錢六拾八文

忠右左衛門

同十一戌年迄

金貳分口錢四十四文

半藏

同元子年より

御知行所

同元子年より

金拾兩三分錢四百貳文

代助

寛政十一未年中

金五兩一分貳朱錢貳百廿四文

宗藏

合金千五百六拾六兩貳分貳朱

三ヶ岡

銀七拾毫貫五分以

五郎

三ヶ宿

錢百拾九貫貳分九文

四ヶ町

七拾貳ヶ村

相手

貳百三十人

右訴訟人源七奉申上候私実父利兵衛ノ儀者生国

江州ニ御座候へ共豆州三島宿百姓ニ罷候ニ付嶋田村

出店仕両所ニ而年来酒造仕罷在候處私儀相統

可仕之處御座内之渡也 好候ニ付弟茂吉ニ相統

相讓利兵衛と改名仕私儀者去ル四ヶ年以前

辰年中当地滞致酒賣買相始候ニ付兄弟の

身上分限致シ候節当利兵衛立合之上実父利平ノ

私へ讓金三千兩貫受候處其節年元金不都合

之由ニ而有金五百兩請取跡金二千五百兩之儀者

去る寛政十年々々文政三辰年正月迄之前書

両店之酒造売掛帳面並貸金證文とも

貳千五百兩分私讓請有之候ニ付其段三ヶ年之間

利兵衛差添掛合致候間餘程相濟候へ共残而

今般相手のもの共儀は不当申募更々取放不申候

無據村々名主へ能出性名書差出呉候様再応

申出候へ共村役人共相手同様一同馴合何様相

掛合候而も性名書等相拒候端々も間々有之候

当惑仕遠路度々御証訴奉申上候何卒以

挨拶のミ埒明不申乍恐心外至極無是非

御証訴奉申上候何卒以

御慈悲相手之もの共被召出滞之分不残

早々相濟候様被仰付被下置度偏ニ奉願上候以上

連雀町

金兵衛地借

天保六未年三月

源七煩ニ付中

召仕

訴訟人 重藏

家主 金兵衛

御奉行所様

373 乍恐以書付奉願上候

能勢十次郎知行所豆州田方郡
間宮村名主伊右衛門奉申上候御支配所
三島宿久保町近江屋万七儀当七ヶ年前
未年十二月中酒造仕込米ニ差支
候間地頭所收納拂米之内買請申度旨
達^而申聞候間則米四拾貳俵相拂
代金拾九兩貳分也利付借用證文ニ
致し翌申年三月晦日限返済可致
苦之処期月日限ニ至^リ候^而も返入
不仕候間追々及催促候得共月々延
申聞更ニ埒明不申候間去子四月中
地頭添翰を以濟方御利解願
差上候積^リ右之段宿役人^江申入候所
暫扣呉候様被申候ニ付差扣居候処
万次郎組合^江嚴敷利解申聞呉候ニ付
同町木屋長平立入元利滞之内^江
金五兩也差入殘元利之儀者同十月中

当主万次郎帰急次第急度濟方

可致苦示談書付差入置候処

尚又十一月中ニ至調達致し兼候趣^而

当丑三月廿日限急度返済可致

万一滞候ハハ證人長平并金皆濟

可仕^⑤^⑥書付差入達^而無心中間候間

無余儀任其意置候処右日限相成候^而も

更ニ等閑置難洪至極仕右者全

私儀^を品能欺候儀ニ相聞此節ニ至^リ候而者

不当之挨拶致し難差置奉存候間

何卒以 御慈悲右万次郎^並

證人長平被 召出厚 御利解之上

早速皆濟仕候様被 仰付被下置度

偏ニ奉願上候以上

能勢十次郎知行

豆州田方郡間宮村

名主

嘉永六丑年五月

伊右衛門^印

組頭

平 助^印

韭山

御役所

(雜の部)

224 乍恐口上書を以申上候

一、此度朝鮮人御賄御用ニ付水夫人足之儀
渡ニ致勝手能哉又ハ村立ニ致勝手能哉
御尋ニ付世話焼共相談仕候処近在之村ニ
御座候得者村立ニ仕勝手能御座候故村立ニ
仰付可被下候委細之儀者御尋之上以口上ヲ
可申上候以上

葦山組

享保四年亥八月

江川太郎左衛門様

河原清兵衛 様

御役人衆様

江間組

浅右衛門 印
伊右衛門 印
弥兵衛 印
平六郎 印
半兵衛 印
與惣右衛門 印
庄兵衛 印

250 夫奉公人請負證文之支

一、此奥右衛門 与 申者慥成者ニ御座候ニ付貴殿御屋敷 江 御奉公
相願當卯十二月廿八日 来辰十二月廿八日迄老年季ニ相定
為御給金 与 式両式分ニ相定只今金壹両壹分慥ニ受取

塚本村御年貢ニ上納仕候処實正ニ御座候殘金 御屋敷様ニ
頂載仕候筈ニ相究候然上 御屋敷御家風之通御奉公
急度相勤 可申候若此者御氣ニ入不申候又 長煩等
仕候ハハ早速拙者共方 引取被仰付次第ニ仕貴殿 少
御苦勞掛申間敷候万一取逃欠落等仕候ハハ是又早速
尋出人代 成共御給金成共被仰付次第ニ仕貴殿 江
毛頭御苦勞掛申間敷候為後日名主奥印證文差上申候処
因 面 如件

一、宗旨之儀禪宗ニ而代々塚本村興聖寺旦那 紛無御座
為其寺請狀拙者共方 取置申候已上

塚本村

寛政七年

卯十二月

人主助右衛門 印
同 請人重右衛門 印
同 證人伊左衛門 印

間宮村

名主

伊右衛門殿

前書之通相違無御座候以上

塚本村

名主

六右衛門 印

57 乍恐以書附奉願上候

一、私方家内江住置候下男伊助儀当酉卅七才免角農業
不出情ニ而逃去出府致シ候儀數度有之其刻情々詫入
改心為致段申事ニ付任其意置候然ル處当七月五日
昼近村江書狀為持使ニ差出シ候處從歸路直ニ欠落
致候趣ニ付心當之道筋㊦々追手差出シ相尋候得共見當り
不申候使㊦㊦ママ始末甚以不屈之心底ニ御座候
是迄數度之不埒勘弁致シ遺候得共逆も見届兼後難
之程難斗万一御屋敷様江御苦勞奉懸候義等も
御座候而者奉恐入候義片時も案心不仕依之乍恐奉願上候ハ
何卒㊦㊦之御慈悲御憐察ヲ以帳外被仰付
被下置候様偏ニ奉願上候右願之通被仰付被下置候ハ、
難有仕合奉存候以上

嘉永貳年七月

豆州田方郡間宮村

八日認九日朝

名主 吉田伊右衛門

村々出府当人等ニ

同 惣 平

みす丁へ存候序

組頭 平 助

此願書差出也

能勢十次郎様御内

海野量平様

271 乍恐書附奉御㊦㊦㊦㊦

能勢榮太助知行所
豆州田方郡間宮村
名主 佐五右衛門煩ニ付
訴訟人倅
理不尽出入
喜右衛門

㊦㊦左衛門様御知行所

久野金之丞様御知行所

同州同郡同村

百姓 丈右衛門倅

相手 丈 助

能勢新三郎様御知行所

同州同郡同村

百姓 由 助倅

相手 由右衛門

百姓 浅右衛門倅

相手 栄 蔵

百姓 同人次男

相手 源 蔵

能勢新三郎様

高田兵庫様 御知行所
久野金之丞様

百姓 平右衛門倅

相手 平 藏

〃 右衛門倅

嘉 助

〃 八左衛門倅

〃 彦 七倅

利 七

百姓 勇 藏

傳左衛門倅

〃 甚 七

〃 藤兵衛倅

藤 助

恒右衛門倅

儀 助

由左衛門倅

宗左衛門

〃 彦兵衛倅

〃 宗兵衛

〃 徳兵衛倅

〃 佐 助召仕

〃 佐 助
三宅傳右衛門様御知行所

同州同郡同村

百姓 源兵衛弟

相手 友 八

井出甚左衛門様御知行所

同州同郡同村

百姓 清右衛門弟

彦右衛門倅

久米藏

百姓 善兵衛倅

周 助

入

右訴訟人喜右衛門奉申上候当村之儀は

給々入會ニ付名主五人有之候処

酒井作次郎様井出甚右衛門様御知行所

小高二御座候故名主弥司右衛門同儀右衛門

兩人ハ御年貢取立斗ニ而名主役

相勤村内相談之上月番相立

宗助甚兵衛佐五右衛門三人ニ而村内ニ

拘り候義都而月番之もの引請

御用向其外村用共相勤

罷仕候然処毎年十一月酉之日

國中惣鎮守三嶋大明神

祭礼ニ付村方一統農業

相休候儀ニ御座候然處當年

之儀は十一月十六日酉之日ニ相当リ

例年之通農業相休候所同夜

相手之内丈助由左衛門兩人村内

若者共惣代之由申私宅罷越

申聞候は今十六日祭礼ニ付村方

一統農行相休候所一日ニ而は

不足ニ候間十七日引統休日

仕度旨申候得共是迄逆も

無之休日故如何敷存候得共

右様之儀は月番懸リ之儀ニ付

宗助方へ罷越差図可受旨

是を申候所一圓承知不仕右兩人

申候は月番名主へ罷出差図を

受候儀へ兼而銘々存居候得共

左候迎宗助方へ休日之儀申入

候而も承知無之候間佐五右衛門より

休日差免與様達申之候

追而高聲申募居入立退

不申候間種々利解申聞候処

却而利不尽而申之論申斷

候ハ、騒立可申様子へ相見之候間

依之無拋右丈助由左衛門兩人之

名前書留置隣家百姓要八

久左衛門ヲ以外若者へ及挨拶

候は是追例も無之殊ニ非番之

儀候間佐五右衛門より難及挨拶旨

申候所如何相心得候哉又候同夜

右兩人罷越申聞候ハ明十七日

休日之儀申入候得共相止可

及挨拶尤佐五右衛門へハ兼而

遣恨有之旨申相歸り如何

訳ニ御座候哉と評議仕候内

同十九日夜九ツ時頃前書

丈助由左衛門外十六人私宅へ

罷越佐五右衛門親子者共申分

有之候間打殺杯と高聲ニ申

署り候ニ付私罷出申分有之候ハ、

御筋合可承候間鎮可申旨申候所

相手十八人之者共申候は昨十七日

休日致度旨申入候得共不承知之由

其上我等名前書記留置候得ハ

後難之程難斗難義無之内

佐五右衛門父子打散候と悉悪口

雜言等申之一四聞入不申無

餘儀夫々支配之名主方_江

相届前書十八人者方早々引

取呉候様相断候へ共埒明不申

私儀月番名主宗助方へ罷越候内

高聲之儀ニ付早速驅帰見候所

居宅戸障子等踏據不成夫

_而己相手之内丈助由左衛門栄蔵

平蔵嘉助右五人外十三人

一同立騒すてに父佐五右衛門へ

打懸り候ニ付驚入移駆付様々

佐五右衛門ニ立退セ候得共私儀成

あやうく相成候ニ付同様立退

申候然処家内之者共も出

右騒_{ニ而}周章散乱仕殊ニ

相手之者共ハ大勢故致方

無之逃去_{ニ而}十八人之者共ハ

一同立去申候前書奉申上候通

素より右躰理不尽_而仕候者ニ

候得は此上何様之儀仕成難儀

可相懸も難斗片時も安心

不仕候殊ニ又夜義ニもかわり候は

程之儀歎敷奉存ニ付今般

不将止事御訴訟奉申候何

卒以 御慈悲ヲ相手名前之

者共被召出前条之始末

御吟味之上以来急度

相守理不尽不仕私共無難承統

相成様被仰付被下置度偏ニ

奉願上候猶亦 委細之儀は

乍恐口上ヲ以可奉申上候 以上

能勢栄太郎知行所

豆州田方郡間宮村

名主 佐五右衛門煩ニ付

倅

文化十二亥年 訴訟人 喜右衛門

十二月

御奉行所様

如期目安差上候間

致返答書来子

三月廿五日評定所へ

罷出可對決若於
不 是可為曲事
もの也

甲斐
主事
主膳
加賀
豊前
右近
中

文化十二亥年 十二月

269 差上申済口證文之事

能勢栄太郎知行所 豆州 田方郡 間宮村
名主佐五衛門 煩ニ付代 悴 喜右衛門 久野
金之承知行所 同村百姓 丈右衛門 悴丈助
外拾七人相手取 理不尽 出入申立去
亥十二月中
曲渕甲斐守様 奉出所 当子三月廿五日
御差日の 御尊判頂戴相附候処

相手方も 夫々返答書を以て御答申上
御吟味中ニ御座候處 再応御日延
奉願上 掛合の上 熟談内済仕候 趣意
左ニ奉申上候

一國中惣鎮守三嶋大明神祭礼之儀は
毎年十一月中ノ 酉ニ御座候処 去亥十一月
十六日酉ノ日ニ相当リ 村内一統 農業相
休候處 一日ニ而は不足の由 申之 翌十七日
休日仕度旨 相手丈助 由左衛門 外拾六人
部屋住の身分ニ而 自己の存意ニ任せ 休日
奉請候 而は 奉恐入 全心得違之旨 今更
相弁 村役人 方江 相託 且亦 鎮守
祭礼 休日之儀は 占来 仕来之通相守
己来村役人 申出候儀は 夫々百姓名目
のもの共より可申出旨 取極 且亦 十九日
夜相手丈助 由左衛門外拾六人のもの共
佐五右衛門方 罷越及理不尽候段 訴訟方
申立相手方ニ而は 同夜 罷越候 もの共は
午藏 嘉助 栄藏 井 丈助 由左衛門
五人のものに有之由申之 雙方中爭 候得共
今般 懸合の上 夫々相分り 己来相互ニ
睦敷突合仕来通リ 郷例 相守候 筈

仍^而は 相手 拾八人 惣代 丈助 栄蔵より

訴訟人 佐五右衛門方^江 詫書差入候上は

同人方^ニ而も 申分無御座 至極 納得の上

和融内済仕 偏に

御威光○ 難有仕合奉存候 然^ル上は

右一件に付 重^而 御願筋毛頭無御座候

爲後證 訴答連印 済口證文差上申処如件

能勢栄太郎 知行所

豆州田方郡 間宮村

名主佐五右衛門 煩付代

同人 倅

文化十三年四月 訴訟人 喜右衛門^印

久野金之丞知行所

同州 同郡 同村

百姓 丈右衛門 倅丈助

外拾七人 惣代

相手 右 丈助^印

能勢新三郎 知行所

同州 同郡 同村

百姓 儀右衛門 倅

栄 蔵^印

御評定所

393 豆州田方郡

間宮村

名主 林右衛門

組頭 源助

御地頭所様 御内

押田作兵衛様

一、浄土宗 廣渡寺 旦那^印 伊右衛門地借

□衛門^印

子 廿四才

女房 まち

己 廿四才

弟 宇兵衛^印

十九才

弟 熊吉

二 人 男

娘

己 十二才

生うめ

己 二才

□ □

己 四十六才

儀 輔 印

三十五才

母 印

六十七才

孫娘ます 印

九才

同 か 弥 印

五才

四人内 男 一人

女 三人

一 同 寺 旦那 印

伊右衛門 借地

新 助 印

三十三才

子 勘兵衛

己 四十四才

女 房 印

廿八才

女 は ま

三人内 男 一人

女 二人

一 同 寺 旦那 印

己 四十六才

母 印

七十五才

倅 熊 吉

己 十三才

伊右衛門地借

惣 八 印

四十三才

女 房 印

四十二才

倅 用 助 印

廿四才

嫁 と め

但し 縁付 己 三十才

同 除帳 惣 七 印

廿七才

娘 辰年 ます 印

死去 十六才

除帳

婚 す い 印

十三才

己六才
布く
己四才

九人内 男五人

女四人

一、同寺 旦那 印

除く 乙右衛門 印

廿九才

除く 女房 印

三十才

要蔵

⊗入 己式十三才

女房 ミつ

己式十式才

式人内 男老人

女老人

伊右衛門地借

祐蔵孫

ゆき 印

丑十一月 廿四才

甚兵衛

死去

娘 生阿き

己式才

一、同寺 旦那 印

卯年死去 次郎右衛門 印

六十四才

一、

倅 貞吉 印

三十五才

一、

孫 志づ 印

五才

三人内 男式人

女老人

一、同宗 光明寺 旦那 印

惣左衛門

後家 印

七十四才

文平 印

三十六才

式人内 男老人

女老人

条次郎 已久 三十一才

女房京

合人数 四拾人内

倅琳三郎

倅謙之助

辰二才

子六才

右者代々拙寺只那二紛無御座候二付則印

形仕差上申候若御法度之切支丹之由申者

御座候ハ、拙僧何方迄も罷出申被可仕候爲後口

仍而如件

京都 智恩院末

豆州 田方郡 問宮村

廣渡寺 ⑩

元治元甲子年三月

京都 智恩院未

豆州 君沢郡 大場村

光明寺 ⑩

右者組中一宗限人別相改寺印形取
付差上申候處少も相違違無御座候以上

元治元甲子年三月

豆州 田方郡 問宮村

名主 林右衛門

組頭 源助

御地頭所様 御内

押田次兵衛様

一、法花宗 妙圓寺 旦那 ⑩

唯八 ⑩

五十八才

女房 ⑩

五十三才

藤次郎 ⑩

廿五才

ちよ ⑩

ノ四人 内 男貳人

女貳人

一、同宗 妙藏寺 旦那 ⑩

生娘 きく

廿三才

久藏 ⑩

六十老才

女房 ⑩

五十三才

倅 林藏 ⑩

三十三才

女房 はつ

二十七才

娘離縁 さと ⑩

除帳 廿七才

同 とり ⑩

廿六才

孫倅 文吉 ⑩

四才

娘 たず

生

ノ六人 内 男三人

女三人

一、同寺 旦那 ⑩

林平 ⑩

十八才

丑春入はる

死去

一、同吉 旦那 印

次左衛門 印

五十四才

太兵衛 印

廿四才

離縁 なを 印

除帳 廿四才

一、 三人 内 男式人

女壹人

合人数 拾四人 内 男八人

女六人

右者代々拙寺只那二紛無御座候ニ付則印形仕
差上申候若御法度の切支丹宗門之由申者御座
候ハ、拙僧何方迄も罷出申被可仕候爲後日

依而如件

元治元甲子年三月

次 豆州 三島宿 本覚寺未

同州 田方郡 間宮村

妙蔵寺 印

同州 韭山 本立寺未

同州 君沢郡 大場村

妙圓寺 印

右者組中一宗限人別相改寺印形取付差上申候
處少も相違無御座候以上

豆州 田方郡 間宮村

名主 林右衛門 印

組頭 源助 印

御地頭所様御内

押田作兵衛様

一、禪宗 梅龍寺 旦那 巳ノ春 茂八 印

死ス

五十五才

女房 印

五十才

母 印

七十八才

倅

吉兵衛 印

廿式才

右者代々拙寺只那二紛無御座候ニ付則印形仕差
上申候若御法度の切支丹宗門之由申者御座
候ハ、拙僧何方迄も罷出申被可仕爲後日

依而如件

豆州 奈古谷 國清寺末

同州 君沢郡 梅名村

元治元甲子年三月 梅龍寺 印

右者組中一宗限人別相改寺印形取之差上申處少しも相違無御座候以上

豆州 田方郡 間宮村

名主 林右衛門 印

元次迄 元甲子年三月 組頭 源 輔 印

御地頭所様御内

押田次兵衛様

一、眞言宗 清水寺 旦那 甚右衛門 印

六十八才

死去 女 房 印

六十七才

娘 なつ 印

三十五才

倅 林 蔵 印

三十四才

仁田村へ縁付

倅 除帳彦右衛門 印

孫 美つ 印

九才

うら 印

己十一才

きち

三才

ふぢ

己四才

七人 内 男三人

女四人

右者代々拙寺只那二紛無御座候二付則印形

仕差上申候若御法度之切支丹宗門之由

申者御座候ハゞ拙僧何方迄も罷出申被

可仕候爲後日仍而如件

高野山 高室院未

豆州 田方郡 間宮村

清水寺

元治元甲子年三月

條々

從前々被爲仰出候御法度之趣堅相守

可申候若五人組之内御法度相背惡事

仕候者御座候ハゞ早速可申上候事

切支丹宗門之儀相改寺印形取之差上申候通

御知行之内不審成者耆人も無御座候自然胡

乱成者御座候ハゞ早速可申上者若隠し置脇

ⓧ候可五人組始如何様之曲事ニも可被為

仰付候事

勸進能角力操之類留置見物群集爲

致申間鋪候事

博奕賭勝負等一切仕間敷若ⓧⓧⓧ

御座候ハゞ名主組頭百姓代五人組共如何

様之曲事にも可被爲仰付候事

右箇条之通り堅相守可申候為ⓧ 連印ⓧⓧ

差上申処依而如件

241 覚

一去々丑ノ冬中相鯛質地之類流地尔不成

裁判有之候處右之通り少々茂質地

請返シ候事茂成兼却而迷惑致候者有之

金銀之借シ借りも手支候他相聞へ候付當卯ノ

九月より丑年以前之通り取捌有之筈ニ

候事

一金銀不致返弁質地をも不相渡及出入候

時者可訴出儀勿論候得共年久敷儀者取

上無之候間享保元申年以前之出入者訴
出間鋪事

一丑年以來當八月中迄奉行所又は私領

少々茂質地年賦亦請戻し候裁判申付

證文改置候分は弥其通り尔可相心得候然共

此上相對を以質流シ尔致候とも勝手次第之事

右此旨を可相守者也

享保八卯ノ年八月

262 覚

一高三年ノ 居屋敷之内

壹斗八升

御年具御役共

入口

三年

本来

差引壹斗貳升

徳米也

右之通り小日記相改 相違無御座候

以上

寛政八辰ノ四月

問宮村

井出藤藏様御知行所

主儀石衛門

宗助殿 證人与左衛門

質入等一向無御座候尚又親類横合の一〇
無御座候爲後日親類證人加判仍而如件

寛政八

辰ノ年四月日

井出藤藏様 間宮村

御知行所 主義右衛門印

親類曾右衛門印

宗助殿 證人与左衛門印

名主長兵衛印

98 覚

一、米三俵式斗式升五合也

是者文政元寅年の天保元寅

暮まで高年貢残之分

此代金壹両三分錢貳百六文

當時相場
貳拾俵替

一、金貳両貳分也

去寅七月八月極月

三度弥介留藏両人

此利永四百八十三文 江戸共奉公ニ付返り金

三分四厘 差支組内近所引請候間

但し月壹匁利 用立候分

一、金貳分貳朱

錢三ノ貳百五十貳文也

是者当六月中の嘉七不埒一件

ニ付葦山様へ御訴訟申上御吟味可

奉請御差紙頂戴仕候處其似

欠落致追々尋等被仰付毎度

村役人出蕪入用並地頭所へ書状

差出ちん並江戸の書状之度二三嶋の

届ちんとも別紙組内親類近所へ

巨細書等相見候上兼而承知之訳也

合金五両三分貳朱錢四十文 錢六六

右之通逸々訳書之通聊も相違無之

右米金返済可仕處嘉七儀欠落致

行衛不相知旁ニ而如何共致方無之

倅弥介留藏親類組内近所打寄

種々相談致候へ共外趣談も無御座

なとニ相成候訳ニ無之處格別之御慈愛

ヲ以右金高へ居屋敷並川向堀田老

ツ引取被下居家之儀者御差置被下倅

弥介家名相統可致旨尤御地頭所

与りも右之段御下知有之趣一同へ被仰

聞倅弥介難有承知奉畏候段々之

御憐愍当人弥介親類其外之もの共

まで一同難有奉存候此上者若輩之

弥介万一心得違等も無之様精々

心付永統仕様萬事取斗可仕候

依之別紙屋敷本證文相添差上

申候處如件

天保式卯年七月廿八日

間宮村

主 弥 介

□

親類

中嶋村 幸

大場村 惣

組内惣代

清 吉

傳 藏 印

近所惣代

幸 八 印

忠 助 印

当 村

伊右衛門殿

399 天保九成年三月

豆州田方郡間宮村差出表

三宅三郎知行

高田斧次郎知行

能勢十次郎知行

久野伊三郎知行

井出甚助 知行

能勢兵庫 知行

武嶋四郎左衛門知行

酒井作次郎知行

一村高八百六拾八石六斗三升 豆州田方郡

此反別 間宮村

七拾四町六反六畝貳拾歩

内

田方 六拾町五反五畝八歩

畑方 拾四町七畝拾貳歩

田方盛廻 上田十五 中田十三 下田十

畑方盛廻 上畑九 中畑七 下畑五

屋敷 十

家数 九拾五軒

人別 四百七拾人

寺 三ヶ所 浄土宗 廣渡寺

真言宗 清水寺

法華宗 妙藏寺

宮三ヶ所 伊勢神明之社

天満天神之社

八幡宮之社

御高札 壹ヶ所

馬 拾疋

村境 村境迄拾九町拾五間

右之通奉書上候通相違無御座候 以上

豆州田方郡間宮村

名主 喜左衛門 印

天保九戌年三月

名主 伊右衛門 印

是者差出不申

御通行之日八ヶ橋迄村役人出迎居候処上紙御三人より

御尋被成候併何も對したる儀旁之事ニ付記し置不申候

三嶋之次書候ハハ何哉余程御尋もと存候処是以

對したる事も不被仰候 御通行ニ付村々耕地

⑤内まで至道普請普木材等有悉奇麗ニ成

申候也

415 申 渡

豆州田方郡間宮村

名主

後見

惣四郎 江

其方儀出精相勤候ニ付中小性席

苗字帯刀

御免被仰付候依之此段

申渡候もの也

地頭所 印

元治元年

八月廿八日 渡邊宗輔 印

三嶋宿へ壺里

河原清兵衛様

間宮村

御役所

一高八百六拾七石三斗五升八合

此掛リ人馬 人足貳拾貳人 但高百石ニ付人足貳人半掛リ

馬拾七疋

馬貳疋掛リ

但人足老人ニ付雇賃乾金壹分百文宛

馬壹疋ニ付 雇賃乾金壹兩づゝ

是は来朝之節三嶋宿々小田原宿迄

一高八百六拾七石三斗五升八合

同村

此掛リ人馬人足貳拾貳人但高百石ニ付人足貳人半掛リ

馬拾七疋

馬貳疋掛リ

但人足老人ニ付雇賃ハ乾金壹分百文つゝ

馬壹疋ニ付 同 乾金壹兩づゝ

是は帰国之節三嶋宿々江尻宿迄

右は正徳年中朝鮮人來朝帰国之節人馬高掛リ^ル内證^{ニ而}雇相立候賃金御吟味ニ付

無相違書上ケ申候 以上

享保六年 丑正月

豆州田方郡間宮村

394 乍恐書付を以御慈悲奉願上候

豆州田方郡間宮村役人共

一同奉申上候此廿一日當村

廣渡寺鎮守祭礼ニ付

例年休日ニ御座候処住守

檀用^{ニ而}留主中同寺

境内^{ニ而}若者共少々打寄

角力取始候処休日之事故

参詣人追々相集リ候ニ付

角力相催候様達御聴

御出役様御越被為在候段何共

奉恐入候右者全休日之

事故若者共角力取始候より

参詣人も立止リ候間御往來

近之儀ニ付所々流布致し

候儀ニ可有之ヲ奉存候

右様之儀共村役人共より

急度制方可仕候処名主

伊右衛門儀ハ出府罷在其外

之もの共病氣又者近在用事

等ニ而重立候もの村方ニ不居合

右ニ付制方不行届何共可申立様

無之重々奉恐入候以来之儀ハ

急度申合右様村内同士たり共

人寄々間敷儀無之様相制

可申候間何卒別格之

御憐愍を以此度之儀者御有免

被成下置候様御慈悲偏

奉願上候己上

田方郡

能勢重次郎

久野伊三郎

高田斧次郎

名主

安政四_レ年 伊右衛門

八月

齊藤源之丞様

歳_〇龍太夫様

御差紙_〇封包 箱入

右之通り昼四ツ時受取早刻

貴村御繼立仕候

八月廿八日 原木村

間宮村 名主_〇

御名主中

三宅三郎

名主

九右衛門

能勢省兵衛

名主

好右衛門

井出源次郎

名主

長平

武島為之助

名主

要七

御役所

173 覚

一給所米貳拾五俵也 来_ル九月晦日限

但し廿五俵貳分也

右之通買請申候処相違無御座候

代金之儀者来九月晦日限急度

御勘定可仕候為後日書付差入
申候処仍^而如件

文政四^乙年 平井村

六月 留兵衛^印

間宮村

宗助殿

(無 尽)

58 一札之事

一私無尽之儀口數八口^{ニ而}連印

取極利掛共會席膳付之積り

御座候右連印慥成者^{ニ而}聊たり

共利掛金滞候様成儀決而無御座候間

御安心被下右之趣御屋敷様

江も被仰上置可被下候且如何様込年

たり共休會等一切不致満尾會

可致此役睨与申談置候為後日

一札差入申候以上

嘉永二年酉三月

新藏^印

伊右衛門殿
九右衛門殿

104 一札

一、金三兩貳分也 但七兩掛右用金

半金返済之分

當未より西暮迄三年賦

右は先年御加入被下候無尽右用切^{ニ而}

立兼候ニ付半金返済可申御約束

之所是迄打延居此度段々御無心

申入當未暮^ル来ル西暮迄元金

三ヶ年賦返済仕度御無心申入候処

格別之御勘弁を以御聞済被成下

千万忝奉存候然上は年々十一月卅日限

無相違返済可仕候為後日一書如件

天保六^本年三月

大場村

主 清次郎

證人 惣左衛門

間宮村

伊右衛門殿

150 一札

一金三兩貳分也

但金七兩掛大用金

半金返済の分

当未々西暮迄三年賦

右は先年御加入被下候無尽大用切ニ而

立兼候ニ付半金返済可申御約束

の所是上打延限此度段々御無心

申入当未暮々来ル西暮迄元金

三ヶ年賦返済仕度御無心申入候所

格別の御勘弁を以御聞済被成下

千萬忝奉存候然上は年々十一月卅日限

無相違返済可仕候爲後日一書如件

天保六^本年三月

大場村

主

清次郎 印

證人

惣左衛門 印

間宮村

伊右衛門殿

(年貢割付状)

年貢割付状については、全文を掲載するとともに、一覧表にとりまとめた。

No.

No.

[illegible]

223 子御年貢米可納割附之事

豆洲田方郡

間宮村

高百三拾三石七升九合

此反別

上田三町貳反四畝壹步

内貳反壹步檢見引

残而三町四畝步

反ニ六斗取

此取米拾八石貳斗四升

貳拾七步前々引

中田貳町貳反貳畝貳拾六步内

壹反廿九步當檢見

残而貳町壹反壹畝

反ニ五斗貳升取

此取米拾石九斗七升貳合

下田三町八反五畝貳拾壹步内貳畝廿壹步檢見㊤

残而三町六反三畝

反ニ四斗五升取

此取米拾六石三斗三升五合

右之通當子御成箇相究候間大

小之百姓立合無高下致免割米_ル

極月十日迄急度可致皆濟者也

享保五年_子十一月

能勢十治郎内

岸宇右衛門 ㊤

喜多代弥忠太 ㊤

間宮村

名主

年寄

惣百姓

320 伊豆国田方郡間宮村卯ノ年貢可納割付之事

百三拾三石七升九合

高辻

此反別拾壹町六反三畝貳拾貳步

内 九町貳反九畝三步

田方

貳町三反四畝拾九步

畑方

此訳

上田三町貳反拾六步

内五反七畝六步

当風損引

残 貳町六反三畝拾步

反ニ六斗取

此取米 拾五石八斗

中田貳町貳反貳畝貳拾六步

内式拾七步

前〃引

此取米五升壹合

反二壹斗式升

三反九畝式拾四步

当風損引

惣取米合四拾八石七斗五升

残壹町八反式畝五步

反二五斗三升

此取米九石六斗五升五合

右之通大小之百姓立合致割府来

下田三町八反五畝式拾壹步

霜月中無相違可皆濟若於令

内四反三畝九步

当風損引

遲滞は急度可申付者也

残三町四反式畝拾式步

反二四斗七升取

享保八年卯ノ十月

高田忠右衛門印

此取米拾六石九升三合

反二四斗七升取

上畑五反九畝拾六步

上田畑二残入

内三畝步

上田畑二残入

間宮村

此取米壹石九升五合

反二三斗式升取

名主

中畑五反八步

組頭

内壹畝八步

前〃引

惣百姓

残四反九畝步

此取米壹石式斗式升八合

反二式斗五升取

下畑

内九畝八步

前〃引

三畝壹步

子ノ川欠

一高百三拾三石式斗九升七合

古川欠引

田方屋鋪共

残六反壹畝式拾八步

反二式斗取

此取米壹石式斗三升九合

反二式斗取

残高百三拾式石三斗六升七合

厘三ツ九歩五厘

屋鋪四反六畝拾壹步

反二六斗取

此取米式石七斗八升式合

反二六斗取

此納米百四拾九俵也

御定免納辻

新下畑四畝七步

右者當酉御年貢米大小百姓并出作之者迄

345 豆州田方郡間宮村御年貢米割付之事

立合無高下割合來ル十一月廿日迄急度可令皆濟者也

天保八酉九月

高田斧次郎内

神田作右衛門^印

間宮村名主 伊右衛門江

惣百姓

88 豆州田方郡間宮村戊御年貢米割付之事

一高百三拾三石貳斗九升壹合

田畑屋鋪共

内高九斗貳升四合

右川欠引

殘高百三拾貳石三斗六升七合

厘三ツ九分九厘

此納米百五拾壹俵也

御定免納辻

内米拾俵也

當水風難ニ付用捨引

殘ル百四拾壹俵也

右者當戊御年貢米如此相究上者大小之百姓並

出作之者迄立會無高下割合來ル十一月廿日以前急度

可令皆濟者也

天保九戌年九月

^印

能勢十次郎内

中野藤五郎^印

間宮村

名主

吉田伊右衛門

惣百姓

365 豆州田方郡間宮村^欠——^欠年貢米割付之事

一高百三拾三石貳斗九升^欠合

田畑屋鋪共

内高九^欠斗貳升四合 右川欠引

殘高百三拾^欠

^欠厘三ツ九分五厘

此納米百四拾九俵

御定免納辻

右者當戊御年貢米如此相究候上者大小之

百姓^并出作之者迄立合高下なく割合來ル十一月

廿日迄急度可令皆濟者也

高田斧次郎内

天保九年九月 神田作右衛門^印

間宮村

名主

伊右衛門 江

惣百姓

組頭 彦兵衛 印

能勢十次郎様御内

中野藤五郎殿

前書之相違無之もの也

能十 印

86

豆州田方郡間宮村丑年御年貢米割付之事

一高百三拾三石貳斗九升壹合

田畑屋鋪共

内高九斗貳升四合

右川欠引

殘高百三拾貳石三斗六升七合

厘三ツ九分五厘

此納米百四拾九俵也

御定免納辻

右者當丑年御年貢米大小之百姓並出作之者迄

立會無高下割合来ル十一月廿日迄急度可

令皆済もの也

天保十二丑年九月

高田斧次郎内

神田作右衛門 印

間宮村

名主

伊右衛門

惣百姓 江

87

豆州田方郡間宮村寅年御年貢米割付之事

一高百三拾三石貳斗九升壹合

田畑屋敷共

内高九斗貳升四合

古川欠引

殘高百三拾貳石三斗六升七合

厘三ツ九分五厘

此納米百四拾九俵也

御定免納辻

右者當寅年貢米大小之百姓並出作之者迄

立會無高下割合来ル十一月廿日迄急度可

令皆済もの也

天保十三寅年九月

高田斧次郎内

神田作右衛門 印

間宮村

名主

伊右衛門

惣百姓
江

(年貢皆済目録)

年貢皆済目録については、年代順に一覧表にとりまとめ収録した。
資料中、最も古い時期の正徳年間・享保年間の資料については、その全文を掲載した。

吉田家古文書 ～ 年貢皆済目録 ～ 一覧表

石斗升合酌

No. 1

番号	年 号・月(西暦)	村 名	村 高	収 込	払 米	領 主 (収納先)	村 役 人	備 考
433	正徳3己9月(1713)	間宮長崎村		110俵		能勢重次郎	伊右衛門勘左衛門	
437	" 3己正月(1713)	間宮村		146 ^{3斗升入}	146	能勢十次郎	伊右衛門	
434	" 5未12月(1715)	"		147-153		"	"	
219	享保4 正月(1719)	"		140				
221	" 5子正月(1720)	"		146				
322	延享2丑12月(1745)	"		149俵	147.0	高田忠右衛門	由右衛門	
252	寛延3未2月(1750)	"		14900	155.266	"	"	
195	宝暦3酉12月(1753)	"	133.291	14900	149.000	高田虎之助	"	
395	宝暦4戌12月(1754)	"		148.-	146-	能勢十次郎	治郎右衛門	
192	明和3戌12月(1766)	"		149.00	137.364	高田忠治郎	伊右衛門	
244	安永元辰12月(1772)	"	133.291	15100	146312	能勢十次郎	"	
214	" 4 12 (1775)	"	133-291	149俵	143-201	高田忠右衛門	"	
338	" 4未12月(1775)	"	133-291	149	143-210	"	"	
245	" 5 12月(1776)	"			143-210	"	"	
301	天明3卯2月(1783)	"	133-291	14900	33 043	高田又十郎	伊右衛門	
299	" 3卯12月(1783)	"	133 291	14900	113 203	"	不 明	
83	天明4辰12月(1784)	"		14800		久野伊兵衛	宗 助	覚
258	" 4辰12月(1784)	"	133 291	15100	47 066	能勢大 学	伊右衛門	
258	" 5己12月(1785)	"	133 291	14900	132 203	高田又十郎	伊右衛門	
158	" 8未5月(1788)	"	133 291	15100	142 265	能勢大 学	不 明	
257	天明9酉正月(1789)	"	133 291	15100	142 266	"	伊右衛門	
155	寛政元酉12月(1789)	"	133 291	14900	143 203	"	不 明	
311	寛政元酉12月(1789)	"	133 291	149俵	143-203	高田又十郎	不 明	
61	寛政5丑2月(1793)	"	133 291	151	138-066	能勢大 学	中野藤兵衛	
328	享和元酉12月(1801)	"	不 明		金56両3分永61.7文	不 明	伊右衛門	
329	" " (1801)	"	133 291	149	133-203	高田庄右衛門	"	

吉田家古文書 ～ 皆済目録等 ～ 一覧表

石斗升合勺

No. 2

番号	年 号・月 (西暦)	村 名	村 高	収 辻	払 米	領 主	村 役 人	備 考
392	享和2 戌12月(1802)	間 宮 村		129-219	117-219	能 勢 十 次 郎	伊右衛門	
335	享和2 戌12月(1802)			129-219	117-219	"	"	
330	享和3 亥12月(1803)	"	133-291	149	143-203	高田庄右衛門	"	
339	文化6 己12月(1809)	"			金44両3分	高 田 兵 庫	宗 助	
268	文化6 己12月(1809)				44両3分永96.9	高 田 兵 庫	宗 助	
340	文化6 己12月(1809)		133-291	149	143-203	高 田 兵 庫	宗 助	
290	文化9 申12月(1812)		133-291	14900	143 203	高 田 兵 庫	宗 助	
324	" 9 申12月(1812)				金42両2分永20.74	"	"	
288	" 11 戌12月(1814)				45両2分永243.5	"	"	
256	文政4 己2月(1821)		133 291	15100	138 066	能 勢 新 三 郎	吉田宗助	
175	" 6 赤2月(1823)		133 291	15100	138 066	"	吉田伊右衛門	
167	" 7 申正月(1824)				41両永16. 不明	高 田 斧 吉	"	
316	" 7 申2月(1824)		133 291	151	118-091	能 勢 吉 三 郎	"	
174	" 8 酉12月(1825)		133 291	15000	121-084	久 野 金 之 丞	"	
327	" 8 酉12月(1825)		133 291	149	118-203	高 田 斧 吉	"	
325	" 9 戌2月(1826)		133 291	151	113-066	能 勢 十 次 郎		
120	" 9 戌12月(1826)		133 291	150	146-084	久 野 金 之 丞	吉田伊右衛門	
317	" 10 亥12月(1827)				永42×838.6文	高 田 斧 吉	"	
318	" 10 亥12月(1827)		133-291	149	143-203	"	"	
168	文政12 丑12月(1829)		133 291	150 00	143-084	久 野 伊 三 郎	"	
347	天保3 辰12月(1832)				永50貫538文3.9	高 田 斧 吉	"	
366	" 5 午正月(1834)		133-291	151	72-063	不 明	"	
215	天保5 正月(1834)		133 291	151	172-606	能 勢 十 次 郎	"	
368	" 5 午12月(1834)		133 291	149	141 203	高 田 斧 吉	"	
367	" 6 己2月(1835)		133 291	150	115-384	高 田 斧 吉	不 明	
216	天保6 2月(1835)		133 291	150	5-703	地 頭 所	間 宮 村	
312	天保7 申12月(1836)		133 291	149	108-203	高 田 斧 次 郎	吉田伊右衛門	
346	" 7 申12月(1836)		133 291	150	113-084	久 野 伊 三 郎		

吉田家古文書 ～ 皆済目録等 ～ 一覧表

石斗升合勺

No. 3

番号	年 号・月(西暦)	村 名	村 高	収 込	払 米	領主(収納先)	村 役 人	備 考
342	天保9戌正月(1838)	間 宮 村	133-291	151	98-066	能 勢 十 次 郎	吉田伊右衛門	
194	天保10亥正月(1839)	"		14900	148 370	久 野 伊 兵 衛	伊右衛門	
344	天保11子正月(1840)	"	133-291	150	98-066	能 勢 十 次 郎	"	
360	天保11子正月(1840)		133-291	151	98-066	能 勢 十 次 郎	吉田伊右衛門	
159	弘化2己正月(1845)		133-291	15100	140 188	久 野 伊 三 郎	惣平 伊右衛門	
332	弘化3午正月(1846)		133-291	15100	127-066	能 勢 十 次 郎	吉田惣平	
17	弘化3午正月(1846)		133-291	149	139-23	高 田 斧 次 郎		
276	弘化3午 (1846)		133-291	14900	139 203	高 田 斧 次 郎	惣 平	
27	" 4未3月(1847)							
333	弘化5申正月(1848)		133-291	149	141-203	高 田 斧 次 郎	伊右衛門	
275	弘化5申正月(1848)		133-291	14900	141 203	高 田 斧 次 郎	伊右衛門	
361	嘉永2酉正月(1849)	長 崎 村		26-2	23-083	久 野 伊 三 郎	吉田伊右衛門	
370	" 4亥12月(1851)	"		29-3407	25-34	高 田 斧 次 郎	太左衛門	
362	嘉永5子正月(1852)	間 宮 村				高 田 斧 次 郎	伊右衛門	
359	嘉永7寅正月(1854)	"	133-291	149	143-203	高 田 斧 次 郎	伊右衛門	
128	安政3辰12月(1856)	"		150-05	132-256	三 宅 三 郎	"	
351	" 4己12月(1857)			150-05	133-153	"	惣 四 郎	
357	安政5午正月(1858)		133-291	149	143-103	不 明	伊右衛門	
34	安政5午正月(1858)	間 宮 村	133-291	150	145-384	久 野 伊 三 郎		
		長 崎 村	29-347	26-2	20-33			
350	" 12月(〃〃)	間 宮 村		150-05	121-153	三 宅 三 郎 三 宅 三 郎	伊右衛門	
352	安政6未12月(1859)	"		150-05	85-293	三 宅 三 郎	吉田伊右衛門	
30	万延元申11月(1860)	間 宮 村	133-291	150	145-384	久 野 哲 之 助		
		長 崎 村	29-347	26-2	21-33			
29	万延元2酉2月(1861)	間 宮 村	133-291	151	122-366	築 地 屋 敷		
		三 福 村	106-916.3	129-219	126-119	"		
		長 崎 村	29-347	26-15	21-15			

石斗升合勺

No. 4

[illegible]

433 請取申米之事

合米百拾俵也

右此米之義者当己ノ御年貢米之内只今

②請取申所実正也爲其證據如此御座候 以上

正徳三年

能勢重次郎内

己ノ九月十七日

大石与惣右衛門

印

橋田太左衛門

印

問宮村名主

伊右衛門 殿

長崎村年寄

勘左衛門 殿

此金貳拾兩

金拾兩ニ貳拾貳俵半かへ

米六分

修善寺半切紙代請取

此金三步

米三分

三嶋大明神へ御初尾

此金貳朱

請取

米拾三俵貳分

長ノ九月十七日ニ請取

此金六兩

金拾兩ニ貳拾貳俵かへ

米六俵六分

同四月ニ請取

此金三兩

同断

米三俵

名主給ニ遣ヌ長崎村へ出候

米三拾俵

伊右衛門ニ

駿借取仰付候

一、米百四拾六俵

但三斗五升入

内

米四拾四俵

卯ノ十二月廿日ニ請取

此金貳拾兩

金拾兩ニ貳拾貳俵かへ

米三俵三分

己ノ正月廿七日ニ請取

此金壹兩貳歩

米四拾五俵

同十二月廿六日ニ請取

米合百四拾六俵

金合五拾兩三步貳朱

右之通不殘皆濟請取者也

能勢十次郎内

若林藤右衛門^印

奥幾右衛門^印

正徳三^レ年

正月晦日

間宮村

伊右衛門へ

397 請取申末之御年貢米之事

米高合百四拾七俵壹斗五升三合 納辻

右者当末之御年貢米段々請取

皆濟申所如件

正徳五年

能勢十次郎内

未極月十日

佐藤成左衛門

間宮村名主

吉田伊右衛門殿

惣百姓中

219 戌之間宮村御年貢米納拂目録

一米百四拾俵三俵

此拂

御年貢納辻

六斗八升かへ

米拾貳俵

申酉兩年殘金元利七兩

米三俵貳升四合

戌之三月御用金壹兩三分永

米貳拾俵壹斗六升

同三月御用金元利拾貳兩分

米三拾俵貳斗四升

同五月御用金拾八兩元利共ニ

米拾九俵五升

同六月御用金元利拾壹兩壹分

米三拾貳俵

同十月金貳拾兩卜利米共

米拾五俵貳斗

同十一月金拾兩分

米三斗四升

代金貳分

内壹分八三嶋大明神様御初尾

米貳俵

名主給ニ被下候

合百三拾貳俵貳斗壹升四合

差引残七俵壹斗八升六合
納下り

享保四年 正月
ひかへ

亥御年貢米皆済目録

一、米百四拾六俵
間宮村本途

一米拾九俵貳斗
三福村の御用金代米ニ
請取申候

合米百六拾五俵

此拂

両二石貳斗六升かへ

米貳拾八俵壹斗四升
代新金九両分

両二石六斗貳升かへ
御手形有

米百貳拾九俵貳斗壹升
代新金三拾九両

壹分元利共也

米壹斗六升五合
三嶋大明神様 江 御初尾 乾金壹分

米貳俵
名主給ニ被下候

合米百六拾表壹斗壹升五合
残チ米四俵貳斗八升五合

右之通ニ納拂如此ニ御座候若相違も御座候ハハ
重而仕直シ差上ケ可申候 以上

豆州間宮村

伊右衛門

享保五年 正月

岸宇太衛門殿

喜多代弥忠太殿



— 吉田家古文書資料集 —

編集発行 函南町教育委員会

発行日 昭和63年3月31日

印刷者 日研印刷

三島市栄町3-30

1967



函南町中央公民館図書室



110165552